

【設立総会】昭和37年11月30日13:00-16:30

明治大学大学院南講堂

議長：渡辺 操 (明治大学)

設立報告：小笠原義勝 (国土地理院)

記念講演：渡辺 光「地理と地図」

【設立準備会の発足まで】

第2次大戦後の地図需要の激増、多方面からの特殊図の作成、地図作成技術の革新などから、欧米各国では国際地図学会を設立し、互に技術と情報の交換を行っている。わが国でも渡辺光氏・小笠原義勝氏らによって地図学会設立の必要性が提唱され、国際地図学協会(ICA)からの参加要請もあり、昭和37年フランクフルトで開かれたICA第1回技術大会を契機として、わが国を代表する地図学会設立の機運が高まり、その年の7月設立準備会が組織されるに至った。

日本国際地図学会設立趣意書

総合開発・公共事業の進展、地理学の発達などにもない、地図の需要は、今日、ひとりわが国だけでなく、世界各国において急激に増大しています。

欧米諸国ではこの状況に即応し、地図の質的向上・普及・発達を目ざして、従来とかく一般の投影法や製図印刷技術に拘泥していた観のあったカルトグラフィの枠をひろげて、広く土地利用・土地分類図・都市図・経済統計図などの特殊図やアトラスの分野を含め、さらに地形測量・写真判読・読図・地図学史・地図教育をも包含する、いわゆるジオグラフィカル・カルトグラフィの学会を設立して、一元的に各部門の技術の発達をはかるとともに、地図学全体として研究を進め、大学にはカルトグラフィのコースを新設し、また国際地図学会を設立して、情報ならびに技術交換を行っています。

わが国においても、このような国際状況に対応する研究組織をつくり、また現在刊行されている各種の地図や地図資料を一室に集めて、これを自由に利用出来る機関を設けることは、急務と考えます。

こゝに、地図を研究し、地図の普及発達に深い関心をよせる個人ならびに団体を広く糾合して、日本国際地図学会を設立し、国際地図学会にも加入をして、内外の関係学会と緊密な連絡をとり、わが国のカルトグラフィの各部門の研究を推進し、また地図センターをもうけて、国土の開発・公共事業の進展ならびに地理学および地理教育の発達に寄与したいと考えます。

何卒本趣旨に御賛同の上、日本国際地図学会の発展に御協力のほど御願ひ申し上げます。

1962年11月

日本国際地図学会発起人一同

【大会】8月3日 8:30-17:00

東京都千代田区立練成中学校

講演 岡山俊雄：フランスにおける地形図の作成経過
フランスにはじまる地図の近代化(17世紀半ばすぎ以降)を測地学・地図学両面から掘り下げ、科学・技術史上における位置づけを講演。

研究発表(連名の*印は発表者を示す)

1. 地図指導の実践記録 (寺口源太郎)
2. 地図と中学生 (河野新一)
3. 縮尺と凡例 (杉村暢二)
4. 明治前期における教育地図 (小椋憲臣)
5. 初期の地形図類について(第2報) (清水靖夫)
6. 地図の良否について (川俣 潔)
7. 地図の著作と著作権について (池田正友)
8. 都市化に伴う土地利用変化面積の計測—東京東北部の場合— (内田 実)
9. 海図編集上の二、三の問題点について (川上喜代四)
10. これからのベースマップについて(予報)
(乾賢二・金澤 敬*・大森八四郎・永島達雄)

シンポジウム：地図教育に何を望むか

問題提起者：松沢光雄・手塚忠則・尾留川正平・高崎正義

司会者：尾留川正平・籠瀬良明

地図展示会

【例会】

第1回 明治大学大学院南講堂

1. アメリカの海図—アメリカ海軍水路部の水路技術研修を終えて (坂戸直輝)
 2. 南極の地図 (原田美道・吉田栄夫)
- 映画「昭和基地の5年」 展示 南極関係地図

第2回 明治大学大学院南講堂

1. 地形図図式の変遷 (大森八四郎)
 2. 東京の防災地図 (中野尊正)
- 映画「沈下」

第3回 明治大学大学院南講堂

1. 氷河の地図表現 (金窪敏知)
2. 道路と地図 (鹿島邦夫)

第4回 明治大学大学院南講堂

1. 地図地名学の諸問題 (山口恵一郎)
2. 海峡と水道の相違について (中西良夫)
3. フランスの地図 (日高達太郎)

【その他】

37. 7月 設立準備会設置
- 9月21 設立準備会
- 10月9 設立準備委員会
- 11月30 設立総会
- 9月9~11 ICA常任委員会(西ドイツフランクフルト)(第2回)
- 9月10~15 ICA技術大会(西ドイツ)(第1回)
38. 10月1~5 ICA常任委員会(イタリア・フィレンツェ)

【総 会】 2 月 29 日 13 : 00—17 : 00
 都立一橋高校柏葉会館
 出席者 : 546 名 (委任状を含む)
 議 長 : 籠瀬良明 (横浜市立大)
 司 会 : 生野真直 (一橋高校)

講演 : 野村正七「アメリカのカルトグラフィ―研修会
 に参加して」(スライド併用)

【臨時総会】 8 月 2 日 (大会当日) 11 : 50—12 : 18
 国立教育会館 (東京都千代田区)
 出席者 : 140 名 (委任状提出 436 名)
 議 長 : 籠瀬良明 (横浜市立大)
 司 会 : 川上喜代四 (水路部)

【大 会】 8 月 2 日 9 : 00—17 : 00
 国立教育会館 (東京都千代田区霞ヶ関)
 参加者 : 140 名

研究発表

1. 地形分類図について (門村 浩)
2. 25 万分 1 広域図について (黒木亮荘)
3. 2.5 万分 1 地形図の長期計画 (森本久弥)
4. 20 万分 1 地勢図の図式改正について (山本三郎)
5. 100 万分 1 国際地図 (IMW)
 (金澤 敬・片江勲・志村哲男・坂倉ひろみ・岡部文武・橋本良一*)
6. 人工衛星による測量 (進士 晃)
7. 海と陸のあいだ (中西良夫)
8. 初期の地形図について (第 3 報) (清水靖夫)
9. 村境設定に関する村絵図の考察 (木村東一郎)
10. 地図教育に関する私見 (井阪篤子)

【例 会】

第 5 回 国土地理院別館会議室 (出席者 60 名)

1. 地籍調査の歴史 (大久保武彦)
 2. 地籍調査の現状と将来 (本田武夫)
- 映画 : 地籍調査

第 6 回 明治大学大学院南講堂 (出席者 64 名)

1. 海図用紙の紙質について (尾花幸雄)
 2. 写真地図について (木谷幸雄)
- 映画 : 海図のできるまで

第 7 回 明治大学大学院南講堂 (出席者 31 名)

1. IGU ロンドン—ICA エジンバラ大会の報告 (渡辺 光)
- 映画 : 私は高速道路・海岸を拓く

第 8 回 国立教育会館第一研修室

1. どんな海図がほしいか (須田皖次)
- 映画 : 美しい国土、日本の古都 他 2 篇

【その他】

- 3月2～7 外国地形図展示会 (国土地理院)
- 6月1—6 明治以降官製版地図中心地図展 (国会図書館)
- 6月5～11 福岡地図展
- 7月27～28 ICA第2回総会 (ロンドン、エジンバラ)
- 7月31 ICA技術シンポジウム
- 8月4 地形図国際展示会エジンバラ
- 10月1～7 札幌地図展
- 11月21～12月5 第4回国連アジア極東地域地図会議 (マニラ)
- 11月22～23 富山地図展

【総会】 2月27日 14:30-17:30
都立一橋高校柏葉会館
出席者: 583名 (委任状を含む)
議長: 生野真直 (一橋高校)
司会: 高崎正義 (国土地理院)
講演: 飯坂義治「地図印刷の現状と将来について」
原田美道「第4回国際連合アジア極東地域地図
会議報告」

【大会】 8月1日 9:00-17:00
国立教育会館 (東京都千代田区)
参加者: 210名 司会: 川上喜代四

研究発表

1. 中学校社会科における地形図の指導について (下条敏伸)
2. 中学校社会科地理教科書における地図利用の問題点 (千葉良平)
3. 地図教育における投影図法の取り扱い (高橋丈夫)
4. マヌエ島の位置 (大島直明)
5. 1:25,000 大阪平野土地条件図について (高崎正義)
6. 昭和35年国勢調査の人口地図について (大友 篤)
7. 標準地図図式体系の確立の提案 (大久保武彦)
8. デジタルプラニメーターの利用について (江幡辰雄)
9. 地図の編図および製図の自動化 (石井喜代士・布施 茂・平出 寿)
10. 地図用原図用紙について (大浦良一)
11. 地図教育に関する私見 (井阪篤子)

地図展: 出品3官庁 23社

展示時間と研究発表時間が同時であり、十分に見る余裕がなく展示の意味が充分つくされたとはいえないとの批評があった。

器材展: 出品13社

現代における地図の新しい製作技術と関係材料がどのように使用されているかわかるように、100万分1国際地図作成工程表および使用材料を例として展示したのは、今後の展示方法に一つの指針を与えた。

【例会】

第9回 国立教育会館 (出席者40名)

1. 海図の電子印刷について (牧 弘)

第10回 国立教育会館 (出席者48名)

1. 地図の展望と将来の問題 (小川 泉)
2. 東アフリカの地図類および自然と文化について (戸谷 洋)

第11回 国立教育会館 (出席者84名)

1. 航法と図法 (進士 晃)
2. ヨーロッパの地図雑感 [スライド使用] (高橋堅造・品田 毅)

【その他】

10月28~11月3 九州地図展

11月5~6 横須賀地図展

11月16~23 オーストラリア地図展

【総会】 2月26日 13:30-17:30
都立一橋高校柏葉会館
出席者: 592名 (委任状を含む)
議長: 生野真直 (一橋高校)
司会: 高崎正義 (国土地理院)

講演 西川 治「西ドイツにおける地域計画アトラス」

【大会】 8月7日~8日 9:00-17:00
国立教育会館 (東京都千代田区)
参加者: 170名
司会: 小川泉・鈴木末三郎

研究発表

1. 統計地図作成簡易化への新しい試み (羽田野正隆)
 2. 縮尺の小さい地図の指導について (中川浩一)
 3. 等高線に関する問題点について (藤森博美)
 4. 初期の地形図類-2万分1地形図について- (清水靖夫)
 5. 教科書としての地図帳の問題点 (小原大喜男)
 6. 海図上の方位大圏 (進士晃*・久保良雄)
 7. スクライブ用器材について (雑賀宏昌)
 8. 地図における地域名称の意義 (山口恵一郎)
 9. 地図における地名の選択 (第3報)
-都市における地名の検討- (井阪篤子)
 10. カナダの地図事情について (大竹一彦)
- 講演: 井上英二「国土地理院における地図整備計画」

【例会】
第12回 国立教育会館 (出席者 40名)

1. ベーリング海の探検と北太平洋における地図の作成について (平林広人)
- 第13回 国立教育会館 (出席者 94名)
1. ICA第1委員会およびIGU ナショナルアトラス委員会の報告。
 2. 欧州諸国における地図とその編集・製図・印刷の実際、とくに製図技術および、その自動化について (金澤 敬)
- 第14回 国立教育会館 (出席者 56名)
1. カナダ・モントリオール開催のICAO (国際民間航空機関) 航空図部会に出席して (川上喜代四)
- 第15回 国立教育会館 (出席者 37名)
1. アメリカの地図教育について [第3回地図学研修会の報告] (野村正七)

【その他】

第11回太平洋学術会議東京で開かる。

地図展 8月22日~9月3日

東京大学で第11回太平洋学術会議および地図展を開催。

目的は

1. 日本とその周辺地域が欧米諸国の地図に、いつ頃どのようなかたちで表現されたかを示すこと。
 2. 江戸時代における日本の地図学発達の系譜を示すこと。
 3. 明治以降100年間における日本の地図学の発達過程を地形図、海図、主題図などについて示すこと、などである。
- 会員名簿 第2版作成-

【総会】 3月4日 13:30-17:00 国立教育会館
出席者: 716名 (委任状を含む)
議長: 岸本 実 (立正大学)
司会: 高崎正義 (国土地理院)
講演: 生野真直「ヨーロッパをめぐる」

【大会】 7月30日~31日 9:00~17:00
日本大学文理学部 (東京都世田谷区)

研究発表

1. 染色法による地図の作成 (野村昌広)
 2. 2万分1地形図と2万5千分1地形図との間 (清水靖夫)
 3. 水路寮第1号海図「陸中国釜石港之図」について (広瀬博司)
 4. 桜川中、下流域の条里分布 (野村康子)
 5. 2万5千分1地形図作成に伴う編集作業の取捨選択に関する若干の試考 (石橋武男)
 6. デッカ海図 (進士晃・鈴木裕一*)
 7. 海図の現状維持とその問題点 (玉木正夫)
 8. 地名の個性 (井阪篤子)
 9. 編集5万分1地形図について (金窪敏知)
 10. ぼかし表現について (浅岡 博)
 11. 空中写真による東京周辺の土地利用の計測 (斎藤光格)
 12. 中学校における地図教育 (奥藤恭弥)
 13. 高校地図教育の一例 (高木 宏)
 14. 住居表示の変更に関する2、3の問題 (籠瀬良明)
- 講演: 大久保武彦「地図と景観と国がらと」

シンポジウム

小学校・中学校および高等学校の地図教育はいかにあるべきか

- 見学会: 1. 国土地理院 (参加者 14名)
2. 海上保安庁水路部 (参加者 20余名)

【例会】

- 第16回 国立教育会館 (出席者 40名)
1. 第5回国連アジア地図会講に出席して (井上英二)
- 第17回 東京大学教養学部 (出席者 72名)
1. 外国の地図地名表記の諸問題 (苛原 暲)
- 第18回 国立教育会館 (出席者 59名)
1. 植生図 (宮脇 昭)
- 第19回 立正大学 (出席者 46名)
1. 地図教育とその評価 (奥藤恭弥)
2. 写真地図について (垣下精三)
- 第20回 国立教育会館 (出席者 48名)
1. 多色刷地質図の褪色について (田中憲一)

【その他】

- 3月8~22 第5回国連アジア極東地域地図会議 (オーストラリア・キャンベラ)
- 4月13 ドレッシェン教授をかこむ懇親会
- 4月19~22 ICA第3回国際地図学会議 (アムステルダム)
- 9月4~22 第1回国連地名標準化会議 (ジュネーブ)
- 10月13~18 地図で見る東京百年展

【総会】 3月2日 13:30-16:30
 国立教育会館6階大会議室
 出席者: 655名 (委任状を含む)
 議長: 籠瀬良明 (日本大学)
 司会: 河本哲三 (科学技術庁)

【大会】 7月27日~29日 9:00-17:00
 立正大学 (東京都品川区) 参加者: 268名
 研究発表

1. 縮尺50万分1土地分類図 (編集図) について (山崎寿雄)
2. 写真測量による大縮尺図化 (垣下精三・木田精二*・武田隆夫)
3. 大縮尺図の精度に関する2~3の課題 (高津三郎*・馬籠弘志・積田典夫)
4. 地震地盤図の考え方 (中野尊正・門村浩*・松田盤余)
5. 小縮尺地図編集における2,3の注意 (金澤敬)
6. 昭和40年国勢調査「日本人口地図」シリーズ (大友篤)
7. 地形図より立体景観図を作成する2,3の試み (犬飼操)
8. 濃尾地域の土地条件図 (25万分1) について (見野部正臣)
9. 地域計画のための土地利用現況の評価
 -土地利用図と土地条件図の利用法の一例- (高崎正義)
10. 自動面積計 (林和夫)
11. 江戸時代古地図の複製について (岩田盛之輔)
12. 地図製作技術者の養成について-建設大学校の場合- (本山満)
13. 熊野灘ぞいの「紀北」と奈良盆地との交通路
 -すてられた通路の地図上再現の試み- (井阪篤子)
14. 地形図の等高線の精度について (平井雄・野々村邦夫*・土肥規男)
15. 印刷業務面から見た海図の最新性維持についての
 一考察 (村松吉雄)
16. ダイレクトスクライブについて (西村蹊二・吉川数美*)
17. 真実を地図で伝えることのむずかしさ
 -資料の確認と表現- (大久保武彦)

講演: 岸本実「沖縄の自然と人」
 カラースライドを多数利用して沖縄各島の自然と景観を地理学的に解説した。

見学会

1. 気象庁
 おりからの台風警戒のため予報等の施設の見学はできなかったが、映画・レーダ室・気象測器検定等を見学した。

2. 地質調査所
 地質図展示室の内外の地質図、鉱物岩石化石の陳列室を見学した。

【長岡および新潟地方大会】

共催: 新潟県地理教育研究会 下越社会研究所
 長岡 7月6~8日 長岡市イテムラデパート
 新潟 7月12~15日 新潟市大和デパート
 講演 高崎正義 「空中写真の判読」
 金澤敬 「地図の読図の基礎」
 シンポジウム: 地図学習について (山崎久雄)
 座談会: 籠瀬良明・須藤賢の司会により地図をめぐる座談会を催した。

【例会】

- 第21回 国立教育会館 (出席者43名)
 1. 小型船用航路の手引 (沓名景義)
- 第22回 国立教育会館 (出席者43名)
 1. アメリカの地図 (高橋堅造)
 2. 地形図読図作業における幾何学的方法 (犬飼操)
- 第23回 東京教育大学 (出席者55名)
 1. 学校教育における小縮尺地図の取り扱い (中川浩一)
 2. 東京23区における土地利用と道路網 (正井泰夫)
- 第24回 国立教育会館 (出席者31名)
 1. 明治前期における教育地図 (小椋憲臣)
 2. ヨーロッパの社会と地図 (池田正友)
- 第25回 農業土木会館 (出席者30名)
 1. 小笠原硫黄島をめぐる地図の話題 (中条久雄・鶴見英策)
- 第26回 国立教育会館 (出席者34名)
 1. 編集者から見た学校地図帳の問題 (小原大喜男)
 2. 昭和40年国勢調査人口地図の作成方法 (大友篤)

チャーマン教授の話を聞く会:

(11月25日 18:00-21:00、中央官庁渋谷会議所)
 米国ワシントン州立大学地理学教室長 John C. Sherman 教授はIGU-ICA会議出席のためインドに行く途中日本に立ち寄った。当学会では、教授の歓迎の講演会および懇親会を行った。

【その他】

7月18~23 地図で見る名古屋
 12月1~14 ICA第3回総会 (インド、ニューデリー)
 新潟地方大会 地図展の古地図
 新潟地方大会 地図展の賑わい
 一会員名簿 第3版作成一

【総会】 3月1日 13:00-17:00
 霞山会館9階集会室(東京都千代田区)
 出席者:703名(委任状を含む)
 議長:生野真直(江東商高)
 司会:山口恵一郎(国土地理院)

【大会】 8月9日~11日 9:00-17:00
 郁文館学園(東京都文京区) 参加者:334名
 研究発表

1. 小学校社会科新指導要領における 地図に関する能力の育成 (佐島群己)
2. 主体的地図学習とその効果—中学地理学習における描図・作図・読図活動を例として (奥藤恭弥)
3. 図上距離と地上距離について (藤森博美)
4. 図法計算上の誤差に関する一考案 (藤沢政夫)
5. 明治10年刊「九州全図」をめぐる諸問題 (羽田野正隆)
6. 真空成型による盲人用地図の製作 (後藤良一)
7. マラッカ・シンガポール海峡の海図の up-dating について (川村文三郎)
8. 立体印刷について (柴田孝郎)
9. 製図技術者からみた主題図作成過程について (竹内 清)
10. 小縮尺「日本全図」の作成の変遷をめぐる話題 (金澤 敬)
11. 地図需要の分析 (渡辺泰三)
12. スクライピングにおける製図工程の研究 (大浜雅宣)
13. スクライブ作業について (佐々木淳二)
14. スクライブの種類とその利用法 (手沢弘雄)
15. 大縮尺図におけるスクライプ法の現状と問題点 (坂東賢一)
16. 5万分1集成図「尾瀬」「日光」(志村哲男*・村田 護) (細井将右)
17. 人工衛星と地図 (細井将右)
18. 空中写真利用による地理的現象の把握方法について (村松祝男)

講演:川上喜代四「海洋開発と海の基本図」

最近とくにその必要性が叫ばれている海洋の総合調査と利用のために、水路部では昭和42年以降海の基本図を作成してきたが、この作成過程・判読・今後の計画等について解説。

巡検:巡視船「いず」による東京湾周航。参加者46名。

海図の見方について船を使つての実地研修は、一般の会員にはなかなか恵まれない機会でもあり、当日はあいにくの小雨模様の天候にもかかわらず全員熱心に巡検を終った。

【仙台地方大会】 10月25日 9:00-17:00
 共催:宮城県教育委員会、仙台教育委員会
 宮城県高等学校社会科地理部会
 後援:東北地理学会
 日立ファミリーホール(仙台駅前青葉通り)
 参加者:98名

1. 巡検:水路測量、海図の使い方およびロラン、デッカ使用の実際、新しい型の水準点の見学を塩釜港で実施(案内者:板垣茂治・金澤敬・坂戸直輝・中村信夫)
2. 見学:地図展「仙台80年のあゆみ」(丸光デパート)
 (説明者:乾賢二・金窪敏知)

3. シンポジウム:地図教育に望むもの
 座長:桑島勝雄・青田清武
 挨拶:西村蹊二(会長代理)・小口貞雄(宮城県教育長)
 問題提起:小学校地図指導の諸問題(三橋亮一)
 中学校地図指導の諸問題(結城信彦)
 高等学校地図指導の諸問題(佐藤英夫)
 コメント:金澤敬・宮川暢三・坂戸直輝・狩野英伍
4. 講演:野村正七「地図教育上の諸問題」
 小中高校の地図教育における注意点を述べ、国土地理院の地図以外にも各種の地図に広く親しむ必要性を説く。

【例会】

- 第27回 虎ノ門共済会館(出席者49名)
1. 港湾施設の地図表現 (今野修平)
 2. 海図の国際統一について (長谷 実)
- 第28回 国立教育会館(出席者58名)
1. メッシュマップについて(上西時彦・大友篤・山崎寿雄)
- 第29回 国立教育会館(出席者56名)
1. 土地分類調査と地形分類図 (式 正英)
 2. ヨーロッパの地図作り (巻淵誠一)
- 第30回 東京大学(出席者61名)
1. 地図学史からみた伊能図 (羽田野正隆)
 2. 木曾川流域の地形分類図 (丸山裕一)
- 第31回 国立教育会館(出席者42名) 日本写真測量学会共催
1. 日本周辺諸国における官製地図の特性(淡路正三)
 2. コンゴ民主共和国の測量事情 (宇佐美嘉平)
 3. 応用写真測量の最近の動向 (大嶋太市)
 4. 最近における地図学の動向 (高崎正義)
- 第32回 国立教育会館(出席者52名)
1. 変形地図の発想 (杉浦康平・中垣信夫)

【その他】

- 3月10~12 国際海図委員会(モナコ IHBにて)
- 3月19~21 国際地図学連合一地図と地図化委員会
- 4月23~26 国際地図学会議、第II委員会(地図用語)
- 9月17~20 国際地図誌会議(ブリュッセル)
- 9月17~24 人口地図国際地図展および会議(ブタペスト)
- 10月22~27 地図展「仙台80年のあゆみ」

特別刊行物第1号 「明治以降地図目録」の完成

中国やヨーロッパの地図作成の技術と合せて、日本の風土のなかで、はぐくまれそだった日本的技術が、文明開化の明治初期から、ヨーロッパのあたらしい技術を逐次吸収しつつ、日本の国土や近海、近隣地域に通用され、数多くの種類の地図が作成されてきた。

この地図目録は、さきに日本地理学会が国会図書館地図室の協力により作成した「明治以降本邦刊行地図目録稿」(1958年、謄写印刷)を、同学会ならびに同地図室の承諾を得て、日本国際地図学会目録編集委員会の手で補訂を加えてまとめたものである。

—同書序文および編集覚え書より— (文部省科学研究費補助金交付)

【総会】1月24日13:00~17:00

私学会館7館講堂(東京都千代田区)

出席者:773名(委任状を含む)

議長:籠瀬良明(日本大学)

司会:西村蹊二(国土地理院)

講演:安藤康生「地図学会に望む」

【大会】8月1日-3日 9:00-17:00

郁文館学園(東京都文京区)参加者:313名
研究発表

1. 広島地方1/5,000色刷写真図について
(伊藤正森・川崎真嗣*)
2. 「ピクトラインマップ」について
(富田由清・橋爪昭次*)
3. 空中写真測量による積雪深分布図作成の問題点
(野々村邦夫・保谷忠男*)
4. 空中写真判読を利用した砂防調査図作成作業
(大竹一彦・野々村邦夫*)
5. ナショナルアトラス編集における諸問題について
(西村蹊二・斎藤祥・長瀬睦子*)
6. 地域メッシュデータの作成と解析の例(瀬戸玲子)
7. 方眼法による地形資料の分析(久住裕他3名)
8. 発表中止
9. 海図製版における色版用製版原稿の作製法の一考察
(重広敏・尾花光雄*)
10. 地図に航路を記入する一方法について(藤森博美)
11. 時刻帯図(進士 晃)
12. 西太平洋のPhysiographic Diagramの作成について
(茂木昭夫*・長谷実)
13. 発表中止
14. 教育施設・環境等の地図化、図表化について
(小原憲臣)
15. 小学校における系統的地図指導(前沢義雄)
16. 明治維新の英国海図(中西良夫)
17. 内務省地理局「5千分1東京実測全図」の作成年代について
(清水靖夫)
18. ケニアの地図事情(戸谷洋*・門村浩)

講演:保柳睦美「伊能忠敬の業績について」

巡検:1. 高尾山 地形図の読図-平板による視準実習。

2. 鹿野山測地観測所 測地観測所見学及地形図読図-平板による視準実習。

【広島地方大会】10月3日 9:00-17:00

広島市青少年センター

共催:広島県教育委員会、広島県高等学校教育研究会社会科部会

後援:地理科学学会、広島市教育委員会

参加者:90名

運営:米倉二郎・吉田栄夫

1. 巡検:第六管区海上保安本部の協力により解説講話および測量船による海上巡検を行った。解説講話では水路部各種業務の紹介と海図の実際について述べ、また、西海区水産研究所環境室長より「瀬戸内海の環境汚染と漁業」について解説が行われ、注目された。

2. 広島地図展見学(天満屋デパート)

3. 討論会:話題提供-義務教育における地図指導の問題点(藤枝孝善)、「足もとの地理と地図利用」について(天河義彦)、教育における地図の指導と利用(東皓 伝)

コメント:西村蹊二、坂戸直輝、三上昭荘。

4. 講演:高崎正義「わが国における地図作成の現況と将来」社会における地図の必要性和利用の立場からこの問題を考えてみる。

【例会】

第33回 国立教育会館(出席者52名)

1. 宇宙時代における空の地図(井上赴夫)
2. 日本陸軍の歩みを基礎とした地図発達史の解明-「習志野原1万分1」をめぐる(関口正雄)

第34回 国立教育会館(出席者85名)

シンポジウム「地図のオートメーション」
(提案者:野村正七・石井幸吉・桜井裕二・石川甲子男・上西時彦)

第35回 国立教育会館(出席者35名)

1. 第四紀地殻変動図について(吉川虎雄)
2. 海図の国際統一について(長谷 実)

第36回 国立教育会館(出席者46名)

1. アメリカ合衆国中西部の地形(鶴見英策)
2. 鶴見川流域における水害変化の背景としての土地利用変化(内田和子)

第37回 国立教育会館(出席者52名)

シンポジウム「地図地名」
(司会:山口恵一郎、発表者:井上赴夫・鏡味明克・小山田安宏・中川浩一)

第38回 国立教育会館日本写真測量学会共催(出席者56名)

1. 国際写真測量学会シンポジウム報告(北川 公)
2. アジア極東地域地図会議報告
(原田美道・篠 邦彦・長谷 実)

【その他】

5月3~9 ICA第5回国際地図学会議(イタリア・ストレサ)

8月5~20 ヨーロッパ地域地理学会議

10月3~7 広島地図展

10月24~11月7 アジア極東地域地図会議

(イラン・テヘラン)

一会員名簿 第4版作成一

【総会】 2月6日 13:30-16:30

国立教育会館6階大会議室(東京都千代田区)
出席者:736名(委任状を含む)
議長:生野真直(都立桜町高校)
司会:西村蹊二(国土地理院)
講演:多田文男「最近の災害地図について」

【大会】 7月24-26日 9:00-17:00

郁文館学園(東京都文京区) 参加者:276名

研究発表

1. 海図編集における問題点 (今井健三)
 2. 日本近海海底地形図(浮彫式)について(古本 望)
 3. アジア型世界図に関する考察 (羽田野正隆)
 4. わが国の地理調査・主題図事業の現状と問題(1) (羽田野誠一)
 5. 中学校における入門期の地図指導 (中川浩一)
 6. 映像教材による地図教育 (鶴飼幸雄)
 7. 国土基本図の利用について (五条英司)
 8. 東京私立高等学校における地図の利用状態について (清水 元)
 9. 三浦半島南部の陸上と海底との地形の関連 (大久保武彦・石田吉明*・須崎晴夫)
 10. 小縮尺図に主要流域界を入れる試み(羽田野誠一)
 11. 東京低地帯の災害危険度 (鈴木美和子)
 12. 地名の選択 (井阪篤子)
 13. 地図図式の構成要素 (大久保武彦)
 14. 日本ナショナルアトラス-土地利用 (長瀬睦子他7名)
 15. 日本ナショナルアトラス-人口分布 (橋本良一他7名)
- パネルディスカッション 「70年代の地図の動向」

コメント:籠瀬良明・川上喜代四・高崎正義・
中川浩一・樋口米蔵・宮川暢三

講演:佐々保雄「東日本鳥瞰」

見学

1. 国土地理院とパシフィック航業株の見学
午前は国土地理院を見学。空中写真から図化する精密図化機や自動4色刷りのオフセット輪転機による印刷作業を見る。午後はパシフィックで空中写真のモザイクや図化室を見学。
2. 明治大学旧芦田文庫の見学
明治大学に収納されている芦田件人旧蔵の古地図を参観。駿河国国絵図(元禄)、日本図(慶長)、日本分域指掌図等をみながら地図の年代・縮尺などを話し合う。

【札幌地方大会】10月6日 8:30-18:00

北海学園大学工学部
共催:北海道教育地図研究会。
後援:北海道教育委員会。

参加者:93名 運営:筒浦 明

1. 巡検:札幌冬季オリンピック施設と真駒内、真駒内高速軌道駅、創成川と国道との立体改良、市域集中暖房の設備工事、札幌駅地下街、大通地下街工事中的見学。
2. 北海道の地図展見学(今井デパート)
3. 講演 高崎正義「地図作成の現状と将来」

【例会】

第39回 国立教育会館(出席者27名)

1. 長久保赤水の各種地図編集 (長久保光明)

第40回 国立教育会館(出席者61名)

1. メッシュマップの現状 (上西時彦)
2. 小川原湖の湖底土地条件図について(斎藤 祥)

第41回 国立教育会館(出席者28名)

1. 平均傾斜量に関する一考察 (土井喜久一)
2. 中央日本における万年雪分布地図帳(五百沢智也)

第42回 国立教育会館(出席者46名)

1. 写真判読カードについて (鶴見英策)
2. 六甲の森林と山崩れ (秋谷孝一)

第43回 国立教育会館(出席者36名)

1. 共点図表の作成を通してみた楕円図法の諸相 (羽田野正隆)
2. 地理教育における地図投影法の取り扱いについて (梅原正己)

第44回 国立教育会館(出席者62名)

1. 地図図式記号表について (大森八四郎)
2. オリエンテーリングの概要 (紺野 晃)
3. オリエンテーリングの北政事情 (青木 弘)

【その他】

4月7日 Hans Boesch 博士(チューリヒ大学)を囲む会

4月12-16日 東アジア水路委員会(第1回)

9月21-24日 第4回地図学史国際会議(イギリス・エジンバラ)

10月5-10日 北海道の地図展

1号添付

5,000分の1東京実測全図(八重洲付近2/3縮小)

【総会】 2月5日 13:30-16:30
 私学会館7階ホール(東京都千代田区)
 出席者: 635名(委任状を含む)
 議長: 中川浩一(東京教育大学附属中学校)
 司会: 西村蹊二(国土地理院)
 講演: 柴田 武 「歴史を語る言語地図」

【大会】 7月29~30日 9:00-17:00
 郁文館学園(東京都文京区) 参加者: 332名
 研究発表

1. 国の機関における地理調査のあり方について (羽田野誠一)
2. 地名呼称の決まり具合 (永井秋雄)
3. 地形図よりみた土浦付近の林地の減少(立石友男)
4. 沖積地の粒土組成について—自然堤防列の比較— (塩津 彬)
5. 空中写真による土地利用の変遷についての一考察 (阿部三樹)
6. 地形図における市街地の表現—総描建物について— (両角 節)
7. 日中両国の地名の比較—河川・湖沼— (中平竜次郎)
8. 海図維持作業の特性 (鈴木信吉)
9. 都市機能図「札幌」と土地利用図「福岡」作成の構想 (木佐貫順一他4名)
10. 小学校の低学年の児童がどのようにして高さを表わすか (宮本哲男)
11. 小学校の高学年の児童の統計地図に対する能力 (域所征路)
12. グループ学習として実施したオリエンテーリング (中川浩一)
13. 発表中止 (飯村義雄)
14. 新学習指導要領による地図の取り扱いについて (鶴飼幸雄)
15. 編集作業における取捨選択と総描についての予察—一般図の場合— (百瀬耕二)
16. 海のアトラスの紹介とその特徴 (跡部 治)
17. ナショナルアトラス作成技術上の問題点 (小林基夫他5名)

講演: 宮地政司「天の図・地の図」
 パネルディスカッション: 「ナショナルアトラスについて」
 司会: 西川 治(東京大学)
 話題提供者と題目:

高崎正義(国土地理院): ナショナルアトラス「日本」の作成事業
 野村正七(横浜国立大学): 地図教育とナショナルアトラス
 羽田野正隆(東京大学): ナショナルアトラス「日本」に寄せて

見学: 1. 鹿野山測地観測所見学および読図実習
 2. KKきもと・国土地理院見学

【福岡地方大会】 11月18日 9:00-17:00
 19日 9:00-12:00

福岡市博多区博多駅東福岡合同庁舎別館大会議室
 共催: 福岡県教育委員会 福岡県高等学校地理研究会
 福岡県中学校社会科研究会 福岡地区小学校社会科研究協議会

後援: 福岡市教育委員会
 協賛: KK 光文館 帝国地図 KK 第一復建 KK 東亜測量 KK 平和測量 KK 九州大和測量
 第1日 18日 研究集会(司会 野村耕造)
 挨拶 会長 原田美道 運営委員長 三上正利
 講演 高崎正義「世界の地図の動向と日本の現状」
 茂木昭夫「海の地図について」
 中村二郎「九州開発構想について」
 城崎悠記「大牟田で見る公害」
 パネルディスカッション「地図教育について」
 司会: 前田理八 吉田充三 関屋啓二
 話題提供: 小西弥好 川越一彦 榎田 稔
 祇園全隼 大部政彦 日高広範
 コメント: 三上正利 籠瀬良明 茂木昭夫 山口恵一郎
 福岡地図展見学
 第2日 19日 福岡湾海上巡検(第7管区海上保安本部)
 説明 山代隆演

【例会】

- 第45回 国立教育会館
 1. 都市化と高度—名古屋市の場合— (両角 節)
 2. 最近の国土地理院発行図を考える (関口正雄)
- 第46回 国立教育会館
 1. 地図の配色について (吉田 稔)
 2. 教育用掛地図の配色について (樋口米蔵)
- 第47回 国立教育会館—沖縄の地図を語る—
 1. 地形図について (籠瀬良明)
 2. 海図について (中西良夫)
 3. 古地図について (岩田豊樹)
- 第48回 国立教育会館
 1. 都市計画と地図利用 (杉山 熙)
 2. 地図に見えかくれする造山円とその軸 (原 英)
- 第49回 国立教育会館
 1. 道路混雑度図について (瀬戸玲子)
 2. 植生図・主要動植物地図について (品田 穰)
- 第50回 国立教育会館
 1. カナダ ICA 会議報告 (高崎正義・野村正七・金澤 敬・羽田野正隆)
 2. 座談会「会議の印象」

【その他】

- 5月10~31 第2回国連地名標準化会議(ロンドン)
 8月10~25 ICA 第4回総会および第6回国際地図学会議(カナダ・モントリオール)
 8月18 国土地理院内より2月に新設の日本地図センター内(東京渋谷道玄坂新大塚第3ビル10階)へ事務所移転
 11月17~23 福岡地図展
 12月2 設立10周年記念式典
 —会員名簿 第5版作成—

【総会】 2月24日 14:00~16:30
 富士写真フィルム本社1階ホール(東京都港区)
 出席者ならびに委任状提出者: 759名
 議長: 野村正七(横浜国立大学)
 司令: 西村蹊二(国土地理院)
 講演: 中島 巖「リモートセンシングと地図」

【大会】 8月2日~4日 9:00~17:00
 郁文館学園(東京都文京区) 参加者: 358名
 研究発表(2, 3日)

1. 衛星測地の現状と将来 (進士 晃)
 2. 赤外カラー写真による地上写真の可能性 (伊藤 等)
 3. 縮尺20万分の1土地分類図作成上の問題点 (山崎寿雄)
 4. 沿岸海域基礎調査について—海の地形図と土地条件図— (金窪敏知・斎藤 祥・入江光一・宮坂力蔵)
 5. これからの海の地図についての—考察(八島邦夫)
 6. 地形表現のいろいろ—段彩色調についての考察— (浅岡 博)
 7. 学校教育としてのオリエンテーリング(中川浩一)
 8. 地誌学習における地図教材の機能 (鶴飼幸雄)
 9. 2万分の1江戸の都市的土地利用図作成について (正井泰夫)
 10. ヨーロッパの市街地図による都市の考察(杉村暢二)
 11. 土地利用図「福岡」の作成について(本山 満)
 12. 2万分の1土地利用調査の構想について(辻 俊夫)
 13. 多摩川河川敷土地利用及び植生調査について (川崎 達・安藤証治・安達 裕)
 14. 1970年農林業センサスよりみた東日本の農業の地域的特色 (瀬戸玲子・岡田直久・鈴木美奈男)
 15. 地図用語統一における問題点—ICA地図学用語多言語辞典の編集にたずさわって— (坂戸直輝)
 16. 地名の成り行き—うれえられる先き行きのほど— (永井秋雄)
 17. 海図の表現に関する2, 3の問題点について (山代隆演・鈴木信吉・中条久雄)
 18. 地図の自動化に関する2, 3の試み (寄藤 昂)
 19. 電子写真による地図の複製(田中豊次・横山 稔)
 20. ナショナルアトラスの印刷について (吉田和夫・渡辺哲之助・林田 隆・渡辺照男・正木武夫)
- 講演(2日): 西村蹊二「リモートセンシングの現状と将来について」
 ナショナルアトラス合同討議: 合同専門部会(地図帳・地図図式・地図複製) 報告(3日)
 座長: 西川 治(東京大学)
 話題提供者およびその題目
 小林基夫(国土地理院): ナショナルアトラスの構成
 浅尾 昭(同): ナショナルアトラスの図式
 吉田和夫(同): ナショナルアトラス複製上の諸問題
 巡検(4日): 海上保安庁水路部—海図作成作業の見学
 および水路業務の概要 参加者 41名

【例会】
 第51回 国立教育会館(3月3日出席者44名)

1. インドネシアの地図事情 (尾崎幸男)
 2. バングラディッシュの測量事情 (金窪敏知)
- 第52回 国立教育会館(5月19日 出席者18名)
 1. 地図作業学習としての外国旅行計画(中川浩一)
 2. 上記の計画後、生徒をつれて実際に外国旅行をした報告 (渡辺むつみ)
- 第53回 国立教育会館(6月30日 出席者50名)
 1. 日本森林立地図について (松井光瑤)
 2. メッシュ的手法による東京とその周辺の樹林地、市街化変化量図について (小宮山武治)
- 第54回(第1回地方例会—新潟) 8月17, 18日
 新潟大学教育学部(出席者240名)
 共催: 新潟地理研究会、新潟大学教育学部地理学教室
 研究発表(17日)
1. 山古志における錦鯉養殖と減反政策 (黒田益雄・他)
 2. 妙高高原の観光開発とその課題 (桐山和雄)
 3. 地理調査と主題図—新潟県における—(小林基夫)
 4. 海図に見られる海底表現の推移 (今井健三・他)
 5. 新潟地理研究会巡検報告—減反政策下における新潟県の農業 (橋本晴夫)
- 講演(17, 18日)
 鈴木郁夫「火山地形の見方」
 磯部利貞「新旧地形図から見た新潟市」
 籠瀬良明「河岸地域の諸相—読図教育の反省」
 小倉正己「上越新幹線について」
 坂戸直輝「海の地図—その現状と将来—」
- 海上巡検(18日) 巡視船“さど” 新潟西港—東港
- 第55回 国立教育会館(9月22日 出席者32名)
 1. 日本の地名学の方向—徐松石“非漢語地名考証法”の効用— (永井秋雄)
 2. 日中の地図にみられる河川、湖沼の地名(中平竜二郎)
- 第56回 富士フィルムKK(11月17日 出席者16名)
 1. 第7回国連極東地域地図会議を終えて(渡辺 光)
 2. 同上第1~第3委員会報告 (高崎正義)
 3. 同上第4委員会報告 (今吉文吉)
 4. 同上併催・地図展について (金澤 敬)
 5. 同上スライド映写 (小林基夫)
- 第57回 東大教養学部(11月28日 出席者46名)
 木内コロキウムと共催
 ナショナルアトラスを通じてみたオーストリアの2, 3の特徴的性格 Hans Bobeck(オーストリア)
- 第58回(第2回地方例会—京都) 12月8日
 日本イタリア京都会館(京都市)
 人文地理学会地理学史部会と共催(出席者50名)
1. 元禄2年堺大絵図について (山澄 元)
 2. メルカトル地図にあらわれたアジア(織田武雄)
 3. 国連アジア極東地域地図会議で示された地図学の含む範囲とその重点 (渡辺 光)

【国際地図学集会】

第7回国連アジア極東地域地図会議に続き、10月28日国立教育会館で。29日潮来・佐原巡検

【総会】 2月23日 13:00~16:00

国立教育会館 第3会議室(東京都千代田区)

出席者ならびに委任状提出者: 722名

議長: 中川浩一(東京教育大付属中)

司会: 山口恵一郎(日本地図センター)

講演: 松石秀之「海洋開発の国際的・国内的動向と地図の重要性」

【大会】 8月1~3日 9:00~17:00

郁文館学園(東京都文京区) 参加者: 346名

研究発表(1, 2日)

1. 赤外カラー地上写真の地図化について—植生図の場合— (伊藤 等)
2. オルソフォトマップ(正射写真図)の現状と問題点 (中村六郎・吉田和夫・岩井皖次*)
3. 森林施業図にみられる割山について (立石友男)
4. ぼかしによる地形表現 (柿沼四郎)
5. 主題図における三角グラフの適用例と問題点 (橋本良一)
6. メッシュ・データの自動処理—解析と表現 (寄藤 昂)
7. 国際地図学多国語便覧について (金澤 敬)
8. 小字名の考察 (前田吉穂)
9. 地名問題の諸経緯—今日の社会各層の認識、ならびに立法・司法・行政運用の現勢について— (永井秋雄)
10. いわゆる地図の精度について (大久保武彦)
11. 中等教育における地図帳について—のぞましい姿— (添田保彦)
12. 小学校における地形模型の作製について (手塚博礼)
13. 地図学習における問題点 (渋沢文隆)
14. 中学校における地図指導の実践 (飯村義雄)
15. 高校における地図利用 (佐藤弥久)
16. 地図教育についての提言 (井阪篤子)
17. 地形図から写景図を作製する方法についての—考察 (開口正雄)
18. 自然環境保全調査報告 (薄木三生)
19. 静岡県有渡丘陵南側の地形—地形図・地質図・空中写真による地形の解析の—考察 (加藤 徹)
20. 都市化の進展に伴う土地割の変化 (滝沢由美子)
21. 明治10年代における高級官吏の居宅分布 (中川浩一)

講演: 原田睦美「ポリビアの地図事情」(1日)

合同専門部会(2日):

「現行学校教育における地図についての問題点」

司会・記録 鶴飼幸雄

話題提供者

佐島群己(東京学芸大学): 小学校について

中川浩一(茨城大学): 中学校について

両角 節(中央大学付属高): 高校について

沢田 清(日本大学): 大学について

座長 野村正七・清水靖夫・坂戸直輝

巡検(3日 コース別見学)

1. 国土地理院
2. 海上保安庁水路部
3. 神奈川県立博物館 開催中の地図展「地図のさまざま」

【例会】

第59回 国立教育会館(3月16日 出席者48名)

1. 首都50km圏緑地現況図について (古賀文雄)

2. 1万分1「呉」土地条件図の表現の工夫について (板垣茂治)

第60回 国立教育会館(5月25日 出席者34名)

1. わが国における都市化の空間的展開 (高橋伸夫・山本正三)

2. 東京西郊の土地利用パターンのメッシュ法による分析

(山本正三・小林浩二・田林 明・桜井明久)

第61回 国立教育会館(6月15日 出席者36名)

第7回国際地図学会(マドリッド)会議報告

会議の規模、日程及び研究討論会とそれらを通して

みた最近の地図学の動向 (高崎正義)

ICA 常任委員会報告 (野村正七)

その他 各委員会、研究部会、地図展示会、関係官庁等の

報告(金澤 敬・高崎正義・佐藤任弘・中村静夫・野村正

七・宮川暢三)。

別に、「ヨーロッパ地図作成機関見学報告」(宮川暢三)

第62回 国立教育会館(9月14日 出席者36名)

1. 大洋水深総図(GEBCO)の動向 (佐藤任弘)

2. ヨーロッパの地図作成機関を巡って(金窪敏知)

第63回 学会センタービル(10月5日 出席者20名)

日本地理学会と共催)

特別講演「Geography among the Sciences」

Wisconsin 大学名誉教授 Richard Hartshorne

第64回(第3回地方例会—大阪)10月19日

合同庁舎3号館大会議室(出席者約150名)

1. 挨拶「地図の国内及び国際的動向—ナショナルア

トラスを中心として— 会長(渡辺 光)

2. オランダの地形二三 (武久義彦)

3. 郷土学習における地図指導 (岩田博一)

4. 2.5万1集成図「大阪」について (入江光一)

見学:「地図で見る大阪展」心齋橋 そごう大阪店7階

第65回 国立教育会館(11月30日 出席者36名)

1. 都市計画と調査 (横山 浩)

2. 地籍図について (松岡 洋)

【その他】

ICA マドリッド会議(4月28~5月4日)

第7回国際地図学会議がマドリッド市の情報観光省に所属する会議室および展示会場で開催され、44ヶ国、6国際機関を含む、508名出席の盛会であった。

日本から、野村正七・高崎正義・金澤 敬・金窪敏知・佐藤任弘の5名が代表として、また西川 治他14名が、ヨーロッパ各国の地図、測量機関の視察もかねて、オブザーバーとして出席した。

なお、日本からの発表論文4、出品地図7であった。

—会員名簿 第6版作成—

【総会】 2月22日 13:30-16:30

国立教育会館第一会議室（東京都千代田区）

出席者ならびに委任状提出者：726名

議長：野村正七（横浜国大）

司会：西村蹊二（国土地理院）

講演：古在由秀「地球の形」

【大会】 8月2日～4日 9:00-17:00

郁文館学園（東京都文京区）参加者：342名
研究発表

1. レリーフシェイディングに関する二三の考察
(巻淵誠一)
2. 降水量の変動を表わす気候図の小縮尺地図表現
(橋本良一・荻野喜助)
3. 東京における工場分布の変化 (井出策夫・竹内淳彦)
4. 関東における明治以降の土地利用変化(久保幸夫)
5. 数値地図の手法とコンピューターグラフィックス
(田中総太郎)
6. マルチスペクトル写真と主題地図作成への応用
(西尾元充・垣下精三・森 尚)
7. 地形計測による山地崩壊の危険度について
(鈴木美和子)
8. 濃尾地域の土地条件図について
(須長博明・板垣茂治・星埜由尚)
9. 洪水危険の情報を表した地図類とその利用について
(末永謙三)
10. 記事に基づく水害図の作成—奈良盆地を例として—
(武久義彦・松井なみ子)
11. 古鬼怒湾海面高の推測—大縮尺地形図と現地調査
(籠瀬良明・一ノ瀬憲照・荒川兼一)
12. スペースのちがいによる地図表現の差異に関する研究
(岩戸栄・佐島群己)
13. 大都市環状鉄道の形成 (青木栄一)
14. 洲崎弁天町の地図 (高橋堅造・池尻長治)
15. 海底地形図読図上の問題点—20万分1海の基本
図を例として— (今井健三)
16. 創造性の育成と読図教育—児童・生徒の地理的見
方・考え方の啓発を基盤として— (奥藤恭弥)
17. 「地図用語多言語辞典」の増補版刊行とその内容
についての考え方 (坂戸直輝・中条久雄)
18. 赤外カラーによる樹木活力のパターン化—地上写
真による試み— (伊藤 等)
19. 植生学的環境評価と植生地図 (武内和彦)
20. 住居の内と外—台東区谷中のケーススタディー
(小林 光・佐藤盛敏)
21. 環境影響評価における地図の利用についての一試案
(野々村邦夫・小林 光)

講演：和田温之「国土情報と地図」

巡検：気象庁見学、気象資料自動編集集中継作業室、気象資料自動編集集中継通信室、通報課、気象観測室、地震現業室、地震記録自動処理室を見学

【例会】

第66回（第4回地方例会—水戸

城県歴史館講堂（1月25日 出席者124名）

1. 明治初期の日立地方—明治14年の地籍絵図を中心にして— (小林 誠)

2. 小・中・高校における地図教育とその問題点 (平山文夫・飯村義雄・会沢義雄)

3. 長久保赤水の地図について (長久保光明)

講演：高崎正義「日本の地図の現状と将来」

渡辺 光「あいさつ」

巡検：常陸太田・日立港・大洗の見学

第67回 国立教育会館（3月8日 出席者48名）

1. スペイン・サラゴサ近郊の地形分類図について (赤桐毅一)

2. 川崎地震説に関連した一考察 (関口正雄)

第68回 国立教育会館（5月31日 出席者68名）

1. メッシュ法による海岸域情報の収集 (柳瀬 訓)

2. メッシュ法による土地情報の利用解析例 (目加田義正・塩島由道)

第69回 国立教育会館（6月28日 出席者24名）

1. 環境アセスメントにおけるコンピューター・マッピング (寄藤 昂)

2. 世界の天気図と気候図 (河村 武)

第70回 国立教育会館（11月1日 出席者24名）

1. 海洋環境図について (吉田昭三)

2. 〈延期〉

3. 地図の過去と未来—英国における地図の国際会議から (金澤 敬)

第71回（第5回）地方例会—静岡

静岡県立中央図書館（11月15日 出席者87名）

1. 中・小学校の野外学習を利用した読図指導 (渡辺 裕・田村敏夫)

2. 地形図を利用した研究例—牧ノ原台地周辺傾斜地の土地利用とその意義 (栗林沢一)

講演：中川浩一「地形図教育の現状と問題点」

五条英司「日本の地形図—変遷と現状—」

渡辺 光「あいさつ」

第72回 国立教育会館（11月29日出席者13名）

1. 因子分析による都市特性の導出とその分布 (永井雅明)

2. ICA理事会〈ロンドン〉報告 (野村正七)

【総会】 2月28日 13:00-17:00
 海上保安庁水路部会議室（東京都中央区）
 出席者ならびに委任状提出者：733名
 議長：小椋憲臣（板橋四中）
 司会：山口恵一郎（日本地図センター）
 講演：山本荘毅「水文図について」

【大会】 8月5日～7日 9:00-17:00
 郁文館学園（東京都文京区）参加者：331名
 研究発表

1. 江ノ島島内における自然環境について（伊藤 等）
2. 福井県三里浜の微地形変化（山野晴彦）
3. 鹿児島地区 1/1 万土地利用図について（星埜由尚）
4. 地盤沈下調査図について（鈴木美和子）
5. 地形分類図の土壤調査への応用について（松井 健・石野公一*・松井 慎・乙咩満臣・鈴木創三）
6. 地図の折畳・展開の新しいメカニズムとその幾何学（三浦公亮*・酒巻正守）
7. 地名改廃の諸問題（前田吉穂）
8. 国内人口移動と地図化（岸本 実）
9. 写真図の特徴と利用状況（山田有司）
10. 空中写真を利用した地籍測量（杉本正数）
11. 空間認識の発達—小学生におけるイメージマップ—（佐島群己・岩戸 栄）
12. 高校における地図指導の問題点（神沢志朗）
13. 世界貿易指導上の地図利用（清水幸男）
14. WGS72（World Geodetic System 1972）について（西沢邦和）
15. 水路部刊行の海の地図の分類について（八島邦夫）
16. ナショナルアトラス 250 万分 1 現存植生図の編集について（橋本良一・河津和幸）
17. 陸軍大尉・福田半（なかば）指導による東京皇城周辺実測図について（斎藤敏夫）
18. 江戸絵図から学校周辺をみる—尾州侯戸山山荘跡—（斎藤 仁）
19. 富山平野三大扇状地中世館位置の問題点（籠瀬良明）

講演：村田貞蔵「地形図と地形」
 扇状地研究の第一人者である演者が、旧版の平板測量によった 5 万分 1 地形図と、空中写真による新しい 2 万 5 千分 1 地形図とを比較しながら、それぞれの長所短所を研究史の上からとらえた。更に問題点の指摘が行われた。

巡検：1. 国土地理院
 2. 東京天文台（東京都三鷹市）
 地図展：20 か国による「世界の基本図と主題図」
 図書・器材展

〔トピックス〕 会費の変更に伴う会則の変更
 細則 会費および会員
 第 1 条 本会の会費は、年額、普通会員 3,000 円、特別会員 30,000 円とする。を本会の会費は、年額、普通会員 3,500 円、特別会員 35,000 円とする。に変更。これに伴い 注) に次の事項を加える。
 細則の変更：第 1 条（昭和 51 年 2 月 28 日）

【例会】
 第 73 回 国立教育会館（5 月 8 日 出席者 32 名）

1. 2.5 万分 1 土地利用図について（辻 俊夫）
 2. カラー空中写真について（平井 雄）
- 第 74 回 国立教育会館（6 月 5 日出席者 28 名）
1. 国土数値情報について（矢口 彰）
 2. コンピュータマッピング—手法と限界—（寄藤 昂）
- 第 75 回（第 6 回地方例会—宇都宮）宇都宮大学教育学部
 6 月 12 日 9:00-16:00（出席者 94 名）
- 1-1 土地利用による地形区分—鹿沼図幅の山地を中心に—（名越侍部）
 - 1-2 地理的見方・考え方を育てる地図利用の実践例（亀岡芳雄）
 - 1-3 地図・地球儀の使い方をどのように指導したか（鈴木早苗）
 - 1-4 宇都宮大学内地留学生の地図教育に関する研究の概要（朝倉隆太郎、清水 昭）
 - 2-1 絵地図から平面図への指導（仁野平篤夫）
 - 2-2 地理的意識の調査—主として方位と距離—（宇都宮大学付属小学校社会部会）
 - 2-3 中学生に対する等値線図の指導（笹沼滝男・巻島秀世）
 - 2-4 明治 9 年の地籍図と足利地方の土地割り（日下部高明）

講演：1. 「地名群落の意義」（山口恵一郎）
 2. 日本における地殻変動の特長（田島 稔）

第 76 回 国立教育会館（7 月 3 日出席者 18 名）

1. サウジアラビアの地図事情（尾崎幸男）
2. ソビエト連邦の海洋地図作成について（跡部 治）

第 77 回 国立教育会館（10 月 2 日 出席者 40 名）
 モスクワにおける第 5 回国際地図学協会総会および第 8 回国際地図学会議の報告
 （野村正七・五条英司・小宮山武治・金澤 敬）

第 78 回（第 7 回地方例会—仙台） 仙台宮城県民会館
 11 月 6 日 13:00-17:00（出席者 48 名）

1. 社会科教育における地図の活用（笠原武文）
2. アルプス・ノルウェーの氷河地形（狩原英伍）
3. 国際地理学会議に出席して（村山 磐）

講演：1. 現代地図の成立とそれに関連する諸問題（渡辺 光）
 2. 国土情報整備事業と土地利用図について（中村六郎）

第 79 回 国立教育会館（11 月 20 日 出席者 24 名）
 幕末から陸地測量部まで—明治初期の測量について—（佐藤 兎・師橋辰夫）

- 第 80 回 国立教育会館（12 月 8 日出席者 15 名）
1. 東京の西に見える山々を例に遠い山の名を確かめるころみ（宮崎慶三・開口正雄）
 2. インドネシアの最近の測量事情（木谷幸雄）

東京湾海上巡検 10 月 30 日 13:30-16:00（出席者 41 名）
 海上保安庁測量船「昭洋」により 東京竹芝棧橋—羽田沖—竹芝帰着 水路部担当者より詳細な解説があった。

学会事務所の移転

学会事務所のある（財）日本地図センターの移転に伴い学会事務所も 4 月 20 日から下記に移転
 千代田区九段南 4-8-8 九段ボンピアンビル 5F（〒102）

【総会】 2月26日 14:00~15:30

海上保安庁水路部第1会議室(東京都中央区)

出席者ならびに委任状提出者: 761名

議長: 富樫 慶夫(水路部)

司会: 山口恵一郎(地図センター)

講演 渡辺 光「日本国際地図学会の使命」

—特に1980年の国際地図学会議の日本開催に関連して—

【大会】 8月4日~6日

郁丈館学園(東京都文京区) 参加者: 364名

研究発表

1. 長良川災害と土地条件図 (丹羽俊二)
2. マップリーディングの海の地図への適用 (八島邦夫)
3. 海上位置測定用自動追尾測位システムの開発 (鈴木裕一)
4. 湖底地形と測線間隔 (橋本圭三郎)
5. 関東地方の傾斜分布図について (松田博幸・島田日良司・八木新太郎・鈴木和喜)
6. リニアメント解読過程地図試案—伊豆半島河津、下田付近を例として (木下昌平)
7. イタリア南部における一般地形学図の作成 (丸山裕一)
8. 群馬県太田市付近の地形分類 (沢口 宏)
9. 竹本光明筆写の八丈全図について (木村東一郎)
10. 教材研究地形図の歴史 (星野 朗)
11. 時習義塾の成立と終焉について—水戸酒井家の近代地図教育 (斉藤敏夫)
12. 戦前撮影の大阪・京都の空中写真 (服部昌之)
13. 日本国勢地図帳の利用法の一例 (武田満子)
14. 伊勢神宮地方支配状況地図の作成とその意義 (井阪篤子)
15. 多摩川の変遷と地名の考察 (水尾藤久)
16. 小学生の地域環境に対する意識と行動—イメージマップを例にその2— (岩戸 栄)

講演: 西水孜郎 21世紀の国土計画はどうあるべきか
パネルディスカッション:

—社会科教育からみた日本国勢地図帳—

パネラー: 飯村義雄・前田吉徳・森 秀薙・野村正七・大森八四郎

座長: 西川 治

17. 地理教育における主題図の利用例について (岩佐武彦)
18. 高校日本史教科書に用いられた地図について (荒井 貞)
19. (発表中止)
20. 錯雑する等高線群の解読の一方法 (大久保武彦)
21. O-MAP (OL用地図) の内容と意義 (青木 弘)
22. 1/1万地形図の試作 (佐々波清夫)
23. 歴史地理研究における空中写真と国土基本図の利用—

特に古代官道跡の検出を例として— (木下 良)
巡検: 国土地理院見学、海上保安庁水路部見学

【例会】

第81回 国立教育会館 (3月18日出席者24名)

第8回国連アジア極東地域地図会議(バンコク)の報告
(尾崎幸男・今吉文吉)

第82回 国立教育会館 (5月26日出席者15名)

1. 福田 半の生涯と業績 (斉藤敏夫)
2. 大宮・入山瀬断層と蒲原地震山の読図と判読 (羽田野誠一)

第83回 (第8回地方例会—山口) 6月12日山口図書館
共催 山口地理学会 (出席者56名)

1. 小学校における地図指導—描図による地図意識の考察— (石原宣尚)
2. OLマップの意義について (木橋悦二)
3. 山口県の地名 (高橋文雄)
4. 山口県下における条里型地割の分布図 (三浦 肇)

講演

1. 地図の利用について (木村喜保)
2. 測量・地図の海外技術協力について (平井 雄)
3. 戦中及び戦後の10年間を通じての地図界の歩み—陸地測量部から地理調査所の業績を中心として— (渡辺 光)

第84回 国立教育会館 (10月1日出席者27名)

1. 第11回国際水路会議 (松崎卓一)
2. 五大湖の地図作成の動機とその経緯 (金澤 敬)

第85回 建設共済会館 (10月22日出席者28名)

新しい学習指導要領について—文部省初中局篠原昭雄教科調査官を囲んで—

第86回 建設共済会館 (12月10日出席者20名)

1. 第3回国連地名標準化会議報告 (金窪敏知)
2. 国土数値情報の自動化 (寄藤 昂)

【専門部会】

地図用語(含臨時小委員会): 用語の発表原案を審議

地図複作: 地図学基礎便覧国内版の作成

地図図式: 地形図図式記号解説の作成

海洋図: ICA 提出論文。日本における海洋地図の表現法の実例について。海の地図における表現法の研究。

地図史(日本地図資料協会と共催)

地図教育: 地図に対する意識・認識に関するまとめ。

地図帳の内容分析。

本年度研究大会におけるパネルディスカッションのテーマに関する研究。

講演: 「東京都公文書館所蔵の地図・資料について」

(財部健志)

【総会】 2月25日 14:00-15:30

国立教育会館中会議室（東京都千代田区）

出席者ならびに委任状提出者：725名

議長：清水幸男（明正高校）

司会：山口恵一郎（地図センター）

講演：奥田豊三「緯度変化から極変動へ」

【大会】 8月3日～8月5日 9:00-17:00

都文館学園（東京都文京区）参加者：310名

研究発表

1. 地形分類図の砂防計画への応用（丸山裕一・池田一雄）
2. 国道沿線道路災害対策調査における図式設計（谷岡誠一）
3. 地域計画アトラスについて（鉄島清忠）
4. 小学校における地形図利用（飯村義雄）
5. 地理教育における地図指導の問題点（高橋文夫）
6. 地図の市街地表現についての考察（両角 節）
7. 伊勢宇治山田地域の歴史的資料地図による当時の景観の復元（井阪篤子）
8. 古典の地図学的解読の試み（大久保武彦）
9. フィヨルドの定義—デンマークのフィヨルドは含めなくてよいか—（籠瀬良明）
10. ヨーロッパの道路マップについて（立石友男）
11. 地図からみた都市の範囲（清水靖夫）
12. 内務省地理局の全国測量計画と成果（斎藤敏夫）
13. 〈発表中止〉
14. 地形図上に見られる米軍駐留による沖縄地域の変容（田里友哲）
15. 測量原図用大型カラー精密複写装置の開発（鈴木裕一）
16. シンガポール海峡における測地系について（八島邦夫・跡部 治・西沢邦和）
17. 海上境界の作図について（西村弘人）
18. 阿蘇、九重における色彩表現（志村哲男）
19. 自動編図の現状と問題点（上西時彦）
20. 地図計測の精度について（八木新太郎）

講演 小峯 勇「教育と地図に関する諸問題」

シンポジウム 地図教育における図式と用語

—地図教育、地図図式、地図用語の三専門部会による—

発表者 鶴飼幸雄・五条英司・坂戸直輝

【専門部会】

地図用語：地図用語の決定、随次地図に掲載

地図教育・地図図式：地形図図式記号の解説として、
地図教育にどのように生かすか整理する。

合同部会で審議

海洋図：ICA 提出論文、海水表現法論文作成

地図複作：ICA 地図技術委員会要請事項の処理

【事務局担当員の交代】

7. 1 植竹裕夫より志村哲男に交代

【例会】

第87回 国立教育会館（4月15日 出席者12名）

1. 〈発表中止〉

2. 土地利用調査に関する研究（今村政夫）

第88回 国立教育会館（5月20日 出席者14名）

1. 新作江戸図嘉永版（予定縮尺約5,500分の1）

—その復元技術と記入内容の問題—（中村静夫）

2. 海底地形図でみる日本近海の海底（茂木昭夫）

第89回（第9回地方例会—奈良）奈良女子大

（出席者54名）6月17日天理大学附属図書館見学

1. わたくしの古地図調査（2）シーボルトコレクションの若干の地図をめぐって（船越昭生）

2. 社会科における地図指導—中学校における2、3の課題—（安井 司）

講演：1. わが国のナショナルアトラスについて

（大森八四郎）

2. 地図、地理、地学等に関する概念の変遷

—意義と内容—（渡辺 光）

第90回 国立教育会館（6月24日 出席者15名）

1. 北ヨーロッパのエコノミックマップについて（立石友男）

2. 多色刷主題図作成のためのカラーチャートについて（田中憲一）

第91回（第10回地方例会—札幌）9月3日

札幌市教育文化会館（出席者82名）

講演：最近の地図作りの状況（金窪敏知）

1. 開拓初期における石狩川地図（羽田野正隆）

2. 石狩川流域の土地利用の変遷（内田 実）

講演：西欧ブルジョアの発生とその分布（井上泰男）

3. 地図美学序論（堀 淳一）

4. 身近な地域における見学学習の指導について

（高平順夫・庄司智則・橋本信一・工藤一広）

第92回（第11回地方例会—富山）9月30日

富山県民会館（出席者72名）

1. 富山県の古地図、高樹会文庫その他について（高瀬 保）

2. 小学校における地図の指導（丸田 進）

3. 古地図、地籍図を使用しての海岸浸食の研究

古地図よりみた—（谷井文夫・山田時夫）

地籍図よりみた—（大野忠広）

講演

1. 地形研究調査に対する地形図と海図利用の思い出

—事例を中部地方にとって—（渡辺 光）

2. 地図の現状と将来（高崎正義）

第93回 国立教育会館（10月21日 出席者21名）

- 第9回国際地図学会議（メリーランド）報告

（渡辺 光・野村正七）

国土地理院移転

3月 国土地理院が筑波研究学園都市に移転した。

（茨城県筑波郡谷田部町北郷1番）

【総会】 2月24日 14:00-15:30

海上保安庁水路部第1会議室
出席者 71名 有効委任状提出者 648名
議長：今吉文吉 (KK セナー)
司会：立石友男 (日本大学)
講演：高崎正義「新しい時代の地図の始まり」

"Representations in Bathymetric Chart"
の検討

地図図式・地図教育：地形図図式の解説(案)と利用者としての地図教育部門での合同討議
地図複作：ICA 地図技術委員会への協力作業を実施した
地図史：図歴表調査、地図史用語について
地図自動化：国土地理院における自動化の現状と展望

【大会】 8月2~4日 9:00-17:00

都文館学園(東京都文京区) 参加者：378名
研究発表

1. 官撰明治国絵図について (齊藤敏夫)
2. 住居表示と地名についての考察 (前田吉穂)
3. 高等学校社会科地図帳における地名の書き方について(森秀雄)
4. 宇治山田とその周辺的生活圏の地図上における復元のころみ (井阪篤子)
5. 古典等の地図学的解読の試み(第2報)(大久保武彦)
6. 衛星画像の教育的利用 (岩佐武彦)
7. 航空写真と視覚 (鈴木信吉)
8. 日本海における海底地形図作成の現状と問題点(今井建三)
9. 土地条件図の活用についての一試案(鈴木美和子)
10. 集成図「尾瀬」の植物景観の表現について (川口博行・河津和幸)
11. 横断図作成等における自動化について(石坂清高)
12. 地域傾向面の地図化について(大友 篤・磯部邦昭)
13. メッシュ方式による気象データの解析と図化 (今井 修・関 和男・池西 登)
14. コンピューターグラフィックシステムの地図分野への応用
15. 水路測量原図用カラー精密複写装置への研究開発 (鈴木裕一)
16. 地図投影法について (金澤 敬)
17. Methods and significance of slope upping (Garry speight, Seiichi Hatano)
18. Morphological mapping と地図表現(羽田野誠一)
19. 写真製版工程省力化に関する研究 (田村勇二)
20. OHB 刷版用材料について(守谷武雄・小倉政子)
21. 衛星画複合成図の試作 (栗山 稔・秋山 実)

特別講演：武田通治 測量と地図の始まり

シンポジウム：地図の自動化

オーガナイザー 上西時彦

スピーカー 寄藤 昂・久保田幸夫・羽田野正隆・八島邦夫・蒲田和広

【専門部会】

地図用語：ICA Multilingual Dictionary 関係作業と学術用語集地理学用語選定原案(文部省)に対する答申のための作業を行う

海洋図：生物の地図の投影法の検討及び人文的要素の図、人文地理学要素の図、東京会議の海洋図セッションに提出予定の Paper

【例会】

第94回 国立教育会館(5月26日 出席者5名)

1. 都市計画策定作業における主題図の編集と製作(須釜昭次) 映画、明日を考える世界(総集篇) -エネルギーと文明- (鹿島映画 KK 提供)

第95回 私学会館(6月2日 出席者13名)

1. バス交通図のころみ-川崎市営バスを例に(開口正雄)
2. 江戸部分復元図二葉-商業の中心地日本橋方面、与力、同心関係八丁堀方面- (中村静夫)

第96回(第12回地方例会-高松) 10月27日

香川大学教育学部会議室(出席者42名)
司会 高桑 紘 座長 山口恵一郎

1. 日本における大型量販店の市町村別分布の特色(坂口良昭)
2. 日本における工業用水源の地理学的研究(高桑 紘) 講演 金窪敏知 地図作成の現状と将来

第97回(第13回地方例会-筑波研究学園都市)

11月12日 科学技術庁科学交流センター国際会議場、共催茨城地理学会(出席者77名) 座長 平山文夫

1. 小学校における地図教育の実践と問題点(飯村義雄)
2. 新指導要領における身近な地域の取扱い(影山雄三)
3. 高校における読図指導 (金沢義雄)
4. 記念碑の地図記号と分布の実際-茨城県の場合(中川浩一)
5. 日立の砂浜海岸の変化について (佐藤惣一)

講演 五条英司 国土地理院の主題図-茨城県を中心として- 巡検 国土地理院見学

第98回(第14回地方例会-岐阜) 11月23日

商工会議所 出席者82名

1. 単元『大水をふせぐ』の実践-地図をもとにした学習の展開- (小林直樹)
2. 小学校における地図の指導について (各務原市那加三小社会科同好会)
3. 中学校における読図指導 (沢島昌彦)
4. 小縮尺地図の指導上の問題点 (牧野誠照)
5. 輪中の古地図について-川通絵図を中心に-伊藤安男)
6. メッシュマップにおけるメッシュの切り方について(関根 清) 講演 1. 地図の書き方について (河本哲三) 2. 将来の国土利用の方向-最近の国土情報整備事業に関連して (高崎正義)

事務所の移転：

11月日本地図センタービル新築にともない事務所を同ビル内に移した。(東京都目黒区青葉台4-9-6)。

【総会】 2月23日 14:00-15:30
 日本地図センター5階会議室(東京都目黒区)
 出席者ならびに委任状提出者:715名
 (内有効の委任状651)
 議長:籠瀬良明(日本大学)
 司会:鶴飼幸雄(郁文館学園高校)
 講演 中川浩一「漱石の読図力と位置感覚」

【大会】 7月31日~8月2日
 郁文館学園(東京都文京区) 参加者:282名
 研究発表

1. 土木測量所について(抄)ーその基本史料と近代への展開(斉藤敏夫)
2. 100万分の1海底地形図「東北日本」について(石井幸吉・今井健三)
3. 「5万分の1沿岸の海の基本図」表現の改正について(児玉徹雄)
4. 沿岸域の基礎図整備に伴う一考察(堀野正勝)
5. 1:40,000都市化過程図「土浦」「札幌」の試作について(金窪敏知・浅尾 昭・前野政克・鈴木敏元・佐藤 佑)
6. 火山基本図について(中村真人・栗山 稔・小出正則)
7. 房総丘陵における3つの地形的要素と複合メッシュマップ(藁谷哲也)
8. 「火山麓扇状地」の地形図による表現差(籠瀬良明)
9. 沼田とその変貌について(高橋堅造)
10. ベラン氏の鳥かん図と日本における新しい鳥かん図の作成の動機(宮下千秋)
11. 斜景図「富士山・富士五湖」(柿沼四郎)
12. 中学校地図帳の改訂と利用について(前田吉穂)
13. 現代社会と地理教育における地図表現(鶴飼幸雄)
14. 〈発表中止〉
15. 「地図編集の自動化」(村田 護)
16. 国土数値情報によるくんせん版作成の試み(田島 稔)
17. スキャナーデータによる地熱調査図の作成について(淵本正隆・那須 充・嶋本孝平)
18. G. モデファイアーによる傾斜分級図の作成(並松武雄・新家正三)

講演:川上喜代四「海に関する二・三の問題」

ゼミナール:ICA東京会議と現代の地図学

司会:坂戸直輝・大森八四郎

会長あいさつ	渡辺 光
会議の意義	高崎正義
委員会の概要	五条英司
発表論文の概要	金窪敏知
地図・地図展の概要	金澤 敬
総会及び理事会	野村正七

見学:国土地理院・松見公園

【例会】

- 第99回 東京地学協会(6月28日 出席者32名)
1. 台風どきの地図利用を考える(開口正雄)
 2. 西ドイツ及びスウェーデンの地図事情の一端(渡辺 光)
- 第100回 宮崎県東京職員寮(10月25日 出席者34名)
 地図学界の動向ーICA東京会議を終えて
1. あいさつ(渡辺 光)
 2. 会議の経過と運営(西村隆二)
 3. 展示(山口恵一郎)
 4. ICAの今後の活動(高崎正義)
 5. ICAの運営(野村正七)

第101回(第15回地方例会一宮山)

11月3日 13:00-16:30

富山市科学文化センター(富山市)

共催:富山地学会(出席者76名)

講演

1. 五条英司 国際地図学会を終えて
2. 北村吉弘 富山の外から富山をみる
富山地図展見学(富山科学文化センター)

【専門部会】

地図用語:地図の利用その他関係法令を含む地図用語の審議

海洋図:人文要素の分類と表現の特徴について検討、ICA東京大会にRepresentation in Bathymetric Chartを有志の作成論文として提出

地図教育:「地形図図式の手引き」の内容を吟味し、再版に備える

地図自動化:ICA東京会議に日本における地図自動化の現状を紹介

地図複作:これまでの作業の反省をふまえ、今後のあり方を検討

【「地形図図式の手引き」の発行】

かねてから地図図式専門部会と地図教育専門部会とが審議検討を重ね編集を続けてきた地形図図式の解説が、「地形図図式の手引き」として財団法人日本地図センターから発行された。内容は国土地理院発行の2万5千分1、5万分1地形図の図式をやさしく解説し、正確な読図を導くための手引書である。

A5判、約60ページ 定価700円

【総会】 2月28日 14:00-15:30
 日本地図センター5階会議室（東京都目黒区）
 出席者ならびに委任状提出者：696名
 議長：大竹一彦（国土地理院）
 司会：立石友男（日本大学）
 講演 篠 邦彦「空中写真測量の思い出」

【大会】 7月29日～31日 9:00-17:00
 郁文館学園（東京都文京区） 参加者：269名
 研究発表

1. 地図彩式と地図彩色について（斎藤敏夫）
2. 地域学習における地図の取り扱いについて（清水幸男）
3. 現代社会と地図（鶴飼幸雄）
4. 駅前の変貌—人工地盤を取り入れた場合—（高橋堅造）
5. 風土記編述記事の地図化について（池田正友）
6. 国土数値情報を利用した段彩版の試み
（杉原祐二・木下 章*）
7. 地図のコンピュータ化における図型入出力の機器
の展望（浦田和広）
8. 大縮尺地図作成の自動化（近藤 勝・石川暢康）
9. 衛星画像合成図作成について（八木新太郎）
10. 岸壁の側傍水深の表現からみた海図の水深精度に
ついて（中条久雄）
11. 海図の最新維持作業に伴う画像処理の自動化
（鈴木裕一・牧 弘）
12. 5万分1集成図「大山・蒜山」について
（松岡 洋・福島康博）
13. 地図における山麓斜面の表現（加藤 徹）
14. 大縮尺地図からみた甲府盆地の土地利用変化（水島一雄）
15. 多摩川下流部二ヶ領用水域における土地利用の変
遷と図化（高木正博）
16. 飲用井戸等の土木工事に伴う減水現象の地図学的
把握（大久保武彦）
17. 水文環境要素を地図化する場合の二・三の問題点
について（高村弘毅）

講演 籠瀬良明 「読図五十年」

シンポジウム —都市地図—

オーガナイザー：正井泰夫（筑波大学）

スピーカー：

中村静夫（中村地図研究所）江戸図作成と土地分類

青木謙二（筑波大学研究生）都市的土地利用図から
みた江戸と東京

森下暢雄（モリインタ）市街案内図の作成について

馬籠弘志（国土地理院）1万分1地形図の作成について

巡検： 1. 国土地理院・地質調査所（地質標本館）：
（参加者26名）

2. リモートセンシング技術センター・ナック
・IBM 東京サイエンティフィックセン
ター（参加者26名）

【例会】

第102回 日本地図センター（5月16日出席者16名）

1. ケニアの地図事情（五条英司）
2. パプアニューギニアハイランドの地図的スケッチ
（山口恵一郎）

なお会場で ICA 東京会議国際展の展示地図の一
部を展示した。テーマは「各国の写真図と都市図」

第103回 日本地図センター（7月18日出席者22名）

1. ベネズエラの地図事情（細井将右）
2. 「土地保全図」について（初倉克幹・松井 健）

同会場で ICA 東京会議国際展の一部を展示した。
テーマは「各国の土地利用図」

第104回（第16回地方例会—広島）

9月5日 参加者：46名

午前：海上巡検（第六管区海上保安本部設標船“ぎ
んが” 広島湾、宇品港→江田島→西能美島北
岸→厳島東岸→宇品港）説明 水路部、“ぎん
が” 乗組員、堀信行

午後：研究発表 広島合同庁舎2階大会議室

1. 江戸幕府の日本図編成について（川村博忠）
 2. 地理教育における地形図の利用法（塚本裕司）
 3. 環境地図について（福岡義隆）
 4. 山林の裸地化と山・里の関係の変遷（堀 信行）
- 講演 国土地理院の地図整備の現状（松岡 洋）
 地図展示見学：開催中の「地図展，81」（本学会協賛）
 —福屋5F 特設会場—を見学。

第105回 日本地図センター（11月7日出席者15名）

1. 「AGS（アメリカ地理学協会）所蔵の外邦地図（陸
地測量部作成について）（永井信夫）
2. 「路線図のこころみ—学校・国鉄などへの提案と
して」（開口正雄）

【その他】

3月 学術用語集「地理学編」発行
 地図に関係の用語は当学会の地図用語
 専門部会が選定した用語がそのまま採
 用された。

8月20日 ICA 名誉会員ラドー博士逝去

1号添付「地形図に見る札幌の発展」

左 明治22年頃調査初刷の地形図（一部1/3縮小）

右 昭和51年編集現在の地形図

【総会】 2月27日 14:00-15:00

日本地図センター5階会議室（東京都目黒区）

出席者ならびに委任状提出者：781名

議長：中西良夫 司会：立石友男（日本大学）

講演 矢沢大二「地図の役割—気候地域学の発達
の歴史に想う」

【大会】 7月31日—8月1日 9:00—17:00

郁文館学園（東京都文京区） 参加者：202名

研究発表

1. 新史料による天保地図改訂について—特にその令達期日と特異点—（斎藤敏夫）
2. 明治14年陸前桃生郡野蒜港近傍測量明細図について（田村勝正）
3. 境界の呼称法について（鈴木敬蔵）
4. ヨーロッパの温泉地名について（小椋憲臣）
5. 行田市北河原地区における土地所有関係と地籍図（小倉 真）
6. 堀上げ田とその変貌—埼玉県の場合（高橋堅造）
7. デジタル写真測量ステーションについて（淵本正雄・上谷 力）
8. 国土地理院における数値情報データベースシステムの開発（木下 章）
9. XYプロッタによる対景図の描画（佐藤典彦）
10. 中央アジア地図の編集について（関口精一）
11. 沖縄の地形図 続報（笹瀬良明）
12. 高等学校社会科における地図使用について（新田牧雄）
13. イギリスの初等地図帳にみられる新しい考え方（梅村松秀）
14. 高校新教科書地理の内容について（星野 朗）
15. 地図教育から社会科の効果的指導を求めて（鶴飼幸雄）
16. 地図の基礎指導の実態と対策（手塚博礼）
17. 地図学用語辞典（仮称）の編集計画と、それに付随する2、3の問題点—ICA 地図学用語多言語辞典（第2版）との関連—（坂戸直輝）
18. ベネズエラ、コロンビア、コスタリカの土地利用可能性分級図とその比較（細井将右）
19. 縮小編集した国土基本図による1万分の1基図作成法の検討（土肥規男・富田由清・大田安雄）
20. 2万5千分の1土地条件図、小豆島の表現について（鈴木美和子）
21. 沿岸域基礎情報図、特に10万分の1地形図、同土地条件図「陸奥湾」について（佐藤敏朗・柴原 充・原口和政・堀野正勝）
22. 河道平面型とS（傾斜）～A（集水面積）特性の関係について—地形図による低地地形調査法と地盤推定法の検討（羽田野誠一）

講演：木内信蔵「社会経済地図の本質と方法」

シンポジウム：「新5万分の1地形図の試作図」

（松岡 洋・保谷睦子・大地賢一・山崎忠雄・相模 裕・河津和幸）

司会：大森八四郎 コメンター：坂戸直輝・河本哲三

巡検（8月2日）：海上保安庁水路部及び朝日新聞社

参加38名

地図展：参加13団体187件（過去の本誌添付地図の主なものも展示。）

【例会】

第106回日本地図センター（5月1日 出席者18名）

1. ICA 地図継続教育委員会第1回会議報告（金澤 敬）
2. ヨーロッパ運河について（金澤 敬）

第107回 日本地図センター（6月12日 出席者16名）

1. ICA 都市地図学研究委員会第1回集會に参加して（正井泰夫）
2. ICAO 航空図の地図特性について—ICAO 航空図図式の歴史の変遷から—（太田 弘）

第108回（第17回地方例会—札幌）10月9日

住友信託銀行札幌支店会議室 出席者85名

1. 野幌丘陵周辺の森林の変化（三野紀雄）
 2. 札幌における等時曲線の分布について（山内正明）
 3. 変形地図からみた日本列島の地域特性（羽田野正隆）
- 特別講演および講演
1. 1万分の1地形図の整備構想について（江川良武）
 2. 石狩平野の地盤沈下と地下水利用（松下勝秀）
 3. 石狩湾新港地域開発の現状（岩間 武）

巡検 テーマ「石狩平野の変貌」

鳥居栄一郎、堀 洋一の案内で、市役所—地盤沈下測定地点—石狩平野—石狩湾新港—市民ギャラリーの順に巡検する。市民ギャラリーでは「地図展'82」を見学する。

第109回（第18回地方例会—松山）11月13日

愛媛県農協会館7階（出席者44名）

1. 古地図からみた松山城下町の発展（窪田重治）
2. 先史地理的にみた松山平野（草地牲自）
3. 土地利用現況図の作図事例と問題点（河合 敬）
4. 愛媛の観光（有馬公夫）

第110回 11月20日 日本地図センター

第11回国際地図学会議（ワルシャワ ICA 会議）報告
（正井泰夫・大竹一彦・金澤 敬・山口恵一郎）

【その他】

ICA ワルシャワ会議

第11回国際地図学会議が政情不安な戒厳令下のポーランドの首都ワルシャワで開かれた。37国437名が参加。日本からは大竹一彦・正井泰夫・山口恵一郎・金澤 敬・奥 克彦・森 章・朝賀恒善の7氏が出席した。会期は7月29日—8月4日。

学会創立20周年記念式典

11月27日の土曜日午後、飯田橋に近い大神宮会館4階で創立20周年の記念式典と祝賀会を行った。会場では渡辺前会長・徳嵩元事務局員と特別会員への感謝状ならびに「地図」掲載論文優秀賞が授与された。

会員名簿 第10版作成

1	17~28	第10回国連アジア太平洋地域地図会議 (バンコク)
2	4	常任委員会 (第104回)
	4	評議員会 (58年第1回)
	25	編集委員会 (第88回)
	26	総会
	26	評議員会 (第2回)
3	24	常任委員会 (第105回)
5	18	常任委員会 (第106回)
	21	例会 (第111回)
	26	編集委員会 (第89回)
7	15	常任委員会 (第107回)
8	2~4	昭和58年度大会
	2	評議員会 (第3回) および顧問・参与会
	18	編集委員会 (第90回)
	20	D・ピアス氏による第12回ICA会議の説明会
24-9.14		第4回国連地名標準化会議
9	17	例会 (第112回)
	22	常任委員会 (第108回)
11	12	例会 (第113回) (第19回地方例会一名古屋)
	22	常任委員会 (第109回)
	24	編集委員会 (第91回)

【総会】 2月26日14:00~15:30 日本地図センター 5階会議室
 出席者ならびに委任状提出者:736名
 議長:田辺健一
 司会:立石友男 (日本大学)

議事:昭和57年度事業報告、決算報告、会計監査報告
 ならびに、昭和58年度の事業計画など、下記の
 事項が審議された。

1. 創立20周年をすぎ、一層学会の発展、充実をはかる。
 その重点的方策として、
 - a) 会員相互並びに国際間の情報交換
 - b) 機関誌の内容充実
 - c) 例会 (地方例会を含む) および専門部会活動の充実
2. 昭和59年に予定される、第12回国際地図会議、第7回ICA総会 (オーストラリア) その他に関する必要な対応
3. 「地図学用語辞典」(仮称)の発行、学会の目的に照合する必要な事業に積極的に対応する
4. 昭和58、59年度役員選出

講演:西村蹊二「測量・地図30年」

戦後の地形図作成事業の、戦前に比し、その進展の早さ拡大を展望した。アメリカ軍による全国空中写真撮影にはじまり、基本測量の民間への外注、2万5千分1地形図全国整備事業の13年間での完了、大縮尺カラー空中写真全国整備の4年間での達成、主題図作成の集大成としての国勢地図帳の6年間での完成、そしてコンピュータによる地図の自動化への歩み、地震予知、宇宙開発のため精密測定機器の開発などに言及

大会展示 地図目録 (抄)

1. 国土地理院
 - 5 万分1 集成図「八ヶ岳」昭57 測
 - 10 万分1 集成図「大阪とその周辺」昭56 測
 - 50 万分1 地方図「中国・四国」昭56 編
 - 20 万分1 地勢図「長野」昭56 編
 - 地域計画アトラス「全国」昭54 編
 - 2.5 万分1 土地利用図「土浦地区」昭50 測
 - 2.5 万分1 土地利用図「土浦地区」昭55、56 測改縮
 - 20 万分1 土地利用図「札幌」昭57 測
 - 2.5 万分1 土地条件図「大阪地区」昭56 測
 - 2.5 万分1 沿岸海域地形図「青森」昭56 測
 - 2.5 万分1 沿岸海域土地条件図「青森」昭56 測
 - 1 万分1 湖沼図「三方五湖」昭56 測
 - 新5 万分1 地形図 (試作図)「札幌・石山」昭57 測
 - 5 万分1 地盤高図「埼玉東北部」昭57 測
 - 自動車発生密度・県内交通量及び県外交通量図「全国」昭57 測
 - ランドサットパネル「阿武隈」昭57 測
 - 1 万分1 地形図「渋谷」昭57 測
 - 25 万分1 衛星画像合成図「南極地域」
 - 25 万分1 衛星画像合成図「札幌周辺地域」
 - 5000 分1 植生写真図「いろは坂」
 - 数値情報のインクジェット方式カラープロッターによる20 万分1 土地利用図「関東地区」昭57 測
 - 鳥瞰図「全国7地域」
 - データベースシステムによる各種の図形出力図「関東地区」外
2. 水路部 (海図)
 - 121 七尾湾 5.5 万分1 昭58.3 刊
 - 140 由利島至祝島 6 万分1 (Lat34°) 昭57.9 刊
 - 621 シンガポール海峡 20 万分1 (Lat2°) 昭57.9 刊
 - 1065 京浜港東京 1.5 万分1 昭58.5 刊
 - 1070 東京湾至国後水道 120 万分1 (Lat35°) 昭57.8 刊
 - 1075 駿河湾 10 万分1 昭58.5 刊
 - 2005 (INT507) フィリピン諸島至ビスマーク諸島 350 万分1 (Lat22° 30') 昭58.2 刊
 - D61^B 東京湾至潮岬 50 万分1 (Lat35°) 昭57.6 刊 (特殊図)
 - 6001 世界総図 4000 万分1 (Lat0°) 昭58.1 刊
 - 6031^C 北太平洋海流図 (7~9月) 1750 万分1 昭57.12 刊
 - 6011 海図図式昭54.3 刊 (海の基本図)
 - 6313 中部日本 100 万分1 昭57.5 刊
 - 6314 西南日本 100 万分1 昭58.3 刊
 - 6359² 潮岬 (海底地形図) 5 万分1 昭58.3 刊
 - 6359²⁻⁵ 潮岬 (海底地質構造図) 5 万分1 昭58.3 刊
 - 6363 相模湾付近 20 万分1 昭58.1 刊
3. 日本地図センター
 - 日本列島鳥瞰図
 - 地形図の手引き
4. 日本水路協会

(新しい水路参考図)

H-305A「海上交通情報図」大阪湾 8 万分 1
(Lat34° 30') 昭 58.5 刊

H-305B 同英文版

H-171「ヨットモーターボート用参考図」東京湾その 1 (東
京-千葉) 7.5 万分 1 (Lat35° 15') 昭 58.3 刊

H-172「ヨットモーターボート用参考図」東京湾その 2 (横
浜-木更津) 7.5 万分 1 (Lat35° 15') 昭 58.3 刊

H-173「ヨットモーターボート用参考図」東京湾その 3 (浦
賀水道) 7.5 万分 1 (Lat35° 15') 昭 58.3 刊

H-174「ヨットモーターボート用参考図」東京湾その 4 (館
山-千倉) 7.5 万分 1 (Lat35° 15') 昭 58.3 刊

5. 日本地図調製業協会

(1) 国土地図

庄内平野水害・地盤液状化予測地形分類図 5 万分 1

北海道植生図 60 万分 1

島根県地質図 20 万分 1

研究交流センターガイド 5 万分 1

(2) 昭文社

道路地図中国地方、東京周辺

観光地図淡路島

総図シリーズ東京首都圏交通図

山と高原地図金剛山・岩湧山

(3) 中央地図

日野市土地利用現況図 1 万分 1

島根県地盤分類図 15 万分 1 他

【大会】 8 月 2~4 日

郁文館学園 (東京都文京区) 参加者:234 名

研究発表

- 1.ベネズエラ・コロンビアの都市の土地条件と市街形態 (細井将右)
 - 2.写真測量の教材用スライド作成 (淵本正隆・並松武雄)
 - 3.嘉永期に存在した全国海岸水深図作製事業 (斉藤敏夫)
 - 4.明治前期地籍図の一筆形態について吟味 (佐藤甚次郎)
 - 5.世界の大陸の面積認知について (神戸 泉)
 - 6.地図帳における日本の地名表記について (池田晶一)
 - 7.立体視地形図の可能性 (宮腰敬一)
 - 8.茨城県飯沼新田の微地形調査の地図探訪 (籠瀬良明)
 - 9.画像航海情報システムについて (上田秀敏・八島邦夫)
 - 10.自動描画による海流図作成
(西沢邦和・奥本 潤・伊藤友孝・割田育生)
 - 11.水情報のファイルと地図化 (赤桐毅一)
 - 12.地域計画アトラス「国土の現況とその歩み」について
(板垣茂治・保谷睦子・吉見昭子・根本寿男)
 - 13.C.D.A. (コンピュータ設計) による土地利用図出力
の試み (鶴見英策・川口博行)
 - 14.インクジェット画像の複製について
(田中康夫・長谷川忍・篠崎 勤・岡庭直久)
 - 15.土地分類調査における地形分類と傾斜分類 (赤桐毅一・村倉克幹)
- 講演
織田武雄「地図にあらわれたチパングとジャパン」

1492年ベハイムの地球儀にはじめて登場した、マルコ・
ポーロの「東方見聞録」によるヨーロッパ人の想像上の国
「チパング」と、1595年オルテリウスのアトラスに記載さ
れた、ポルトガル人の中国来航により具体的存在としての
「ジャパン」に至る、世界図上の日本の変化をたどる。

シンポジウム 「新 1 万分 1 地形図」

座長:正井泰夫 記録:鶴飼幸雄

話題提供者とその題目

馬籠弘志 (国土地理院):1 万分 1 地形図の作成の
経緯と今後の整備方針

江川良武 (国土地理院):新 1 万分 1 地形図の表現
討 論

大久保武彦、関口正雄、小杉金三郎、坂戸直輝、野村正七
巡 検 4 日 9:00 千葉駅前よりバス、26 名

1.伊能忠敬記念館 (佐原)

2.国立歴史民俗博物館 (佐倉)

展 示 (地図・図書・器材) 20 の官庁・団体・会社等
特定テーマは強調せず、この 1 年に作成された、新
しい地図自動化関係図を中心に。

【例会】

第 111 回 日本地図センター (出席者 14 名)

1.地形図からみた港湾都市の変遷 (佐野 充)

2.地図思想の原点としてのインドとネパール (山口恵一郎)

第 112 回 日本地図センター (出席者 15 名)

1.地図作成の海外技術協力 (金窪敏知)

2.フィリピンカガヤンバレー地区における地図作成 (篠 重彦)

3.マラッカ・シンガポール海峡の統一基準点海図作り (八島邦夫)

第 113 回 第 19 回地方例会一名古屋 (出席者 57 名)

愛知県中小企業センター講座

1.これからの国土地理院の地図 (大竹一彦)

2.郷土学習と地図

3.小学校と会社のための絵地図について (大石 功)

4.沖積平野の地形・地質図 (井関弘太郎)

5.古図と地籍図 (水野時二)

【専門部会】

地図用語専門部会臨時小委員会

「地図学用語辞典」の印刷が、技報堂出版 (東京赤坂) に
内定 (第 108 回常任委員会で承認)。同書の完成予定は昭和
59 年 7 月上旬で、発行部数 3000 部、B6 判、約 400 ページ、
表紙ビニールソフト、8 ポ 1 段組、予定価格約 2600 円、著
作権、日本国際地図学会。なお以上の正式契約は 11 月。

地図用語専門部会

技報堂による組見本を配布、若干の修正意見あり、
印刷所に指示。

地図教育専門部会

鶴飼部会員の韓国訪問 (9 月 23~27 日) のおり、入手
の現地の地理教育用教科書、地図帳を回覧、その地図帳に
歴史用地図と年表も含まれる点に注目し、論議を展開。

- 1 14 例会 (第114回)
- 2 3 常任委員会 (第110回)
- 3 3 評議員会 (59年第1回)
- 21 編集委員会 (第92回)
- 25 総会
- 3 8 パース地図展に出品する地図の選定会議
- 23 常任委員会 (第111回)
- 5 22 常任委員会 (第112回)
- 23 編集委員会 (第93回)
- 7 20 常任委員会 (第113回)
- 8 7~9 昭和59年度大会
- 4, 5, 13 第7回ICA総会
- 6~13 第12回国際地図学会議 (オーストラリア・パース)
- 25 例会 (第115回) (第20回地方例会一山口)
- 31 編集委員会 (第94回)
- 9 29 評議員会 (59年第2回) および顧問・参与会
- 常任委員会 (第114回)
- 10 7~10 地図展, 84 (都立産業貿易センター)
- 24 選挙委員会 (第1回)
- 11 17 選挙委員会 (第2回) 例会 (第116回)
- 21 編集委員会 (第95回)
- 28 常任委員会 (第115回)

【総会】 2月25日 14:00~15:30

日本地図センター5階会議室
出席者ならびに委任状提出者:584名
議長:山口恵一郎 (日本地図センター)
司会:斎藤祥 (国土地理院)

議事:昭和58年度事業報告、決算報告、会計監査報告
ならびに、昭和59年度の事業計画など、下記の
事項が審議された。

- 1.前年度にひきつづき、より一層の発展、充実をはか
るため、その重点的方策として、
 - a) 会員相互並びに国際間の情報交換
 - b) 機関誌の内容充実
 - c) 例会 (地方例会を含む) および専門部会活動の充実
 - d) 会員数の拡大
- 2.第12回国際地図学会議 (パース)、その他に関する
必要な対応
- 3.「地図学用語辞典」の編集

講演:高崎正義「三全総の見直し・四全総の方向・地図の将来」
1985年からスタートする第四次全国総合開発計
画を前に、その国土利用の方向から見て、都市地域、
沿岸地域の地図が重複されることを展望。

ICA パース会議出品地図目録

A.都市及び地域計画のための地図

- 1.東京地形図 (1万分1) 地理院 1984 上野・日本橋・
池袋・新宿・貼合せ
- 2.東京都土地利用現況図 1981 (3万分1) 都 1983
- 3.千代田区土地利用現況図 (6千分1) 東京千代田区 1983
 - (1) 土地建物用途別
 - (2) 建物構造別

- (3) 建物階数別
- 4.土地利用図関連地区 (20万分1) 6面貼合せ地理院 1984
- 5.土地保全図静岡県 (20万分1) 土地局
 - (1) 土地利用・植生現況図
 - (2) 災害履歴図
 - (3) 自然環境条件図 (地質)
- 6.地域アトラス地理院 1984
 - (1) 自然植生度 (250万分1)
 - (2) 土地利用 (250万分1)
 - (3) 都市地域の拡大と土地利用型の変化 (東京) (25万分1)
 - (4) 都市地域の拡大と土地利用型の変化 (大阪) (25万分1)
 - (5) 通勤圏 (50万分1)
- B.海の地図
- 7.海底の地形図西南日本 (No.6314) (100万分1) 水路部 1983
- 8.海底地形図牡鹿半島 (No.63693) (5万分1) 水路部 1983
- 9.海底地質構造図牡鹿半島 (No.63693-8) 5万分1 水路部 1983
- 10.ヨットینگチャートの矢→赤石花 (No.H-187)
7.5万分1 水路協会 1984
- 11.ヨットینگチャート三河湾 (No.H-185) 7.5万
分1 水路協会 1984
- 12.沿岸海域土地条件図鳴門海峡 (2万5千分1) 地理院 1984
13. (1) 沿岸漁場環境図阿武隈・名取川河口域 (2.5万
分1) 地理院 1984
(2) 海底面音響影像図弘法根 (1万分1) 地理院 1984
- 14.日本周辺海底地質図 (300万分1) 地質調査所 1983
- C.コンピューターによる地図
- 15.東京の土地利用とその推移宅地動向調査地理院 1984
 - (1) 全域 (20万分1) 1979
 - (2) 国立市 (1万分1) 1979
 - (3) 東京東北部 (5万分1) 1974
 - (4) 東京東北部 (5万分1) 1979
 - (5) 東京東北部変化地域 (5万分1) 1974
 - (6) 東京東北部変化地域 (5万分1) 1979
- 16.本州中央部 (関東申信越地方主要部) 鳥瞰図 (約50
万分1) 地理院 1982
- 17.長野・高田地方鳥瞰図 (約20万分1) 地理院 1984
- 18.北海道植生図 (60万分1) 造船振興財団 1982
- 19.ランドサップマップ四国 (33万分1) 東海大学情報
技術センター1984
- 20.インド洋及オーストラリア近海海流図 (1750万分
1) 水路部 1983
- 21.Expo'85-科学万博筑波 1985- (約2.8万分1) 博
覧会協会 1983
- D.表現技術による地図
- 22.北アルプス南部 (2.5万分1) 北海道地図 1984
- 23.皇居周辺鳥瞰図 (4000分1) 日本グラフィックマップ 1982

【大会】 8月7~9日 郁文館学園 (東京都文京区)
参加者:202名

研究発表

1. ブラウの「大アトラス」に見るベネズエラ（細井将右）
2. メッシュマップによる地域交通の分析—東京都の場合を例として—（丹沢以理）
3. 出雲十郡絵図について—松江藩 神田家三代の業積—（斎藤敏夫）
4. 石黒信由による加賀・越中・能登三国の測量と地図作成（木下 良）
5. 国連海洋法条約における海図の役割（橋場孝三）
6. 広域（中～小縮尺）傾斜区分図についての一試案（羽田野誠一）
7. 簡易水準測量と地盤高図について（津沢正晴）
8. 千葉付近の水準点上下変動と地図（細井将右）
9. 地図の著作権について（池田正友・山田雄造）
10. 20万分1土地利用図について（赤桐毅一・森規矩雄・川口博行）
11. 1:15,000 土地条件図「丹那地区」について（鈴木美和子・金井正夫・関崎賢一）
12. 地理教育の立場から見た新版1万分の1地形図（鶴飼幸雄）
13. 高校地理における赤外カラー写真の土地被覆と土地利用図への利用（伊藤 等）
14. 〈発表中止〉
15. 専門学校における地理調査教育について—土地利用調査を例にして—（山田善敬）
16. 地図における地名等のローマ字表記の問題点について（金窪敏知・長岡正利）
（国際地図学会議急拠出席のため発表中止）
17. 地図学用語辞典の発刊を控えて—その内容について—（坂戸直輝）
18. 沿岸漁業開発のための自然条件の調査と地図表示（熊木洋太・原口和政）
19. 新旧地形図の比較による地形変化の把握と問題点（市川清次・長岡正利・羽田野誠一）
20. 火山基本図の整備と三宅島噴火地形変化図について（武田隆夫・大田英雄・峯岸 進）
21. 山岳地形図の新しい試みについて（外崎重厚）
22. プロセスインキの耐光度について（田中康夫・尾崎豊彦・飯田 繁）
23. イギリス・カナダ・アメリカにおける海図作成工程の自動化（西沢邦和・今井健三・川鍋元二・富永 健）
24. 高速自動製図用のスクライブベース（谷崎達三・並松武雄）
講演：原田美道「国際測量技術者連盟(FIG)の活動について」
1887年創設で、現在加盟 48ヶ国 54団体の連盟の近時の活動を紹介。

【例会】

第114回 日本地図センター（出席者 10名）

1. ブルガリア型都市景観—第3回国際地図学協会都市地図学研究委員会に出席して—（正井泰夫）

2. アイルランドの都市景観（山口恵一郎）

前半は、日本地理学会と共催

第115回（第20回地方例会—山口）

山口県教育会館 第2研修室（出席者 52名、同時開催の地図研修会研修員 36名を含む）

1. 小学校低学年の地図意識（河内澄行）
 2. 最近の国土地理院の地図について（鶴見英策）
 3. 防長古地図について—毛利家文庫の絵地図を中心とした—（三浦 肇）
 4. オーストラリアにおける国際地図学会議の報告（高崎正義）
終了後、県立山口博物館での「地図の歴史展」を見学
- 第116回 日本地図センター（出席者 28名）
1. 国際地図学協会（ICA）第7回総会および第12回国際地図学会議（オーストラリア パース）の報告（野村正七他7名）
 2. オーストラリア東海岸、ニュージーランド紀行（山口恵一郎・西村蹊二）

【その他】

ICA パース会議等

第7回総会が、8月4、5、13日の3回にわたり、西オーストラリアのパース市、コンサートホールで開催され、37ヶ団が参加。日本から高崎正義・野村正七が正副代表として出席。また、同所開催の第12回会議には、54国から861名の多数が参加。うち日本からは、上記代表以下26名、同伴者6名であった。

この総会・会議の成果は、多岐にわたり、会議では、7つの主テーマをもつ学術会議、各種委員会、地図の国際展、オーストラリア地図展、オーストラリア地図史展、地図技術展、そして4コースからなる8技術巡検等がおこなわれた。

学術会議では、発表論文94編中、日本からは5編となった。

「地図学の歴史」のセッションでは、場所柄16世紀以降のオーストラリア大陸発見と開拓に関する地図・海図からの考察が集中し、生きたオーストラリアの歴史を見ることができた。

なお、各セッションごとに口頭発表内容をテープにし、会場で有料頒布したが、これは後日のため好評であった。技術巡検の4コースは、1がオーストラリア州土地・測量局をパース市ウエムプレイ技術専門学校、2が州鉱山局・州森林局と都市計画局、3がウエムプレイ技術専門学校、西オーストラリア工科大学、そして市メトロポリタン水道局、4が民間地図企業、という見学であった。

地図展'84

東京都港区（浜松町）都市産業貿易センター5F 展示場
国土地理院、日本地図センターその他関連協会・団体の共催、本学会も協賛。なお、来年日本開催予定のFIG（国際測量技術者連盟）の前夜祭的意味で、メカトロニクス展（日本測量協会主催）

1	30	評議員会(60年第1回) 常任委員会(第116回)
2	5	選挙管理委員会
	14	編集委員会(第91回)
	23	総会 評議員会(第2回)
	24	編集委員会(第96回)
4	12	定期大会運営会議(第1回)
5	7	長期計画企画委員会
	23	常任委員会(第118回)
	31	編集委員会(第97回)
8	5	顧問参与会合(60年第1回)
		評議員会(第3回) 定期大会
	28	編集委員会(第98回)
	20	地図学用語辞典出版記念会
9	20	常任委員会(第120回)
10	12	地図学基礎便覧作成検討委員会
	25	企画委員会
	31	編集委員会(第99回)
11	10	例会(第118回) 地方例会(第21回)
	20	常任委員会(第121回)
12	20	拡大企画委員会

【総会】 昭和 60 年 2 月 23 日(土) 14:00~15:00

議事 出席者 68 名 委任状 684 通

- I 昭和 59 年度事業報告及び収支決算報告
- II 報告 59 年度会計監査報告
- III 昭和 60 年度事業計画案及予算案
- IV 昭和 60-61 年度役員選出
- V 日本学術会員候補者の推薦

講演

松井 健「地図情報に基づく自然条件の分級評価の手法」

【トピックス】

都市地図

昭和 59 年度の本専門部会の活動も、従来と基本的に同じく、国際地図学協会都市地図学研究委員会(International Cartographic Association Commission on Urban Cartography)と密接な関係において進められていた。

地図教育

昭和 59 年度も、偶数月の第 3 木曜日に定例部会が毎回数名の出席者により郁文館学園で開催された。後半は、主査の個人的事情で休止した。今後も関心のある会員の参加を期待する。

[部会の内容]

二つの主題について討議が続行中である。一つは、昭和 59 年 3 月に国土地理院より発行された、新版 1 万分の 1 地形図「東京」19 面を、地理教育の立場から実際にこの地形図を資料としながら現地を歩いて読図指導した経験をもとに建設的な意見が提案された。さらに昭和 59 年 7 月 30~8 月 3 日に開催され

る第 29 回全国地理教育研究会東京大会行事の巡検コースの中で、東京私立中学高等学校地理教育研究会(私地研)が主体となって実施する「東京都内オリジナル・ミニ・エクスカージョン 10 コース」では、この新版 1 万分の 1 地形図「東京」を主たる教材に活用して、全国各地から参集する会員とともに地形図による現地学習の効果について討議され、身近な地域学習のあり方が再確認された。もう一つは、太田部会員の勤務校である慶応義塾普通部生徒による「世界地図帖」の手造り作品数冊が提示されたので、この作品を討議材料に地図教育の実践についての意見交換が続行されつつある。

地図用語

59 年度は 58 年度に引きつづき、20 周年記念刊行物の一つである「地図学用語の辞典」の執筆、編集、校正、内容の統一、挿入図面・写真等の作成に全力を投入した。

173 回、174 回の部会では執筆担当者を含め、この辞典の刊行に伴う編集について、経過報告を行うとともに、問題点について説明、意見を交換、校正の方針等について了解を得た。なお、以下にのべる臨時小委員会の内容について説明、これについての了解も得た。

174 回の部会においては、オーストラリアのパーズで 8 月 4 日に行われた第 12 回 ICA 会議のときの多国語辞典作業部会の報告-ICA-MDC(地図学用語多国語辞典)(第 2 版)の刊行について出席者から詳細な説明があった。このとき予め用意しておいた、わが国の「地図学用語辞典」の「見本刷」を、作業部会のメンバーおよび各国からの出展者に配布、好評を得た。

第 107 回~112 回の臨時小委員会においては、毎回、辞典に収録保留の用語についての採否の審議を行うとともに、中項目分類索引、英文索引の担当等を決定した。この臨時小委員会と平行して、約 35 回の校正・校閲作業を編集責任者が行った。

【大会】

郁文館学園(東京都文京区)

研究発表(連名のうち※は発表者)

1. オルテリウスの「地球の舞台」の中の地図と方向
細井将右(国土地理院)
2. 郵便業務に係る地図の表現法について
塩川友弥子(地図情報センター) ※伊藤 等
3. ソ連の新しい地図帳(第 3 版)について
渡辺一夫(法政大学)
4. 「地図の綴方」は小さい頃から始めよう一僕の作った世界地図帳の作成・指導から一太田 弘(慶応義塾普通部)
5. 中学地理教科書における図的表現に関する 1 考察
※森田 喬(地図情報センター) 太田 弘(慶応義塾普通部)

6. 高校授業における世界略図の使用について
岡村能成 (埼玉県立松山高校)
7. 1984年王滝村伝上川大崩壊に伴う地形変化—大縮尺図・地形分類図の作成—※長岡正利・武井良道・市川清次 (国土地理院) 守屋以智雄 (金沢大学)、塩島由旭・堀部 晋 (国際航業 KK)
8. 最近の傾斜分布図とその利用
田中耕平 (国立防災科学技術センター)
9. 山形地区の土地条件図について
※鈴木美和子・長井二郎・海野芳聖 (国土地理院)
10. 地名表記と JIS 漢字 佐藤典彦 (水路部)
11. 縄手地名 木全敬蔵 (奈良国立文化財研究所)
12. 地図学用語辞典をふりかえって
大久保武彦 (早稲田大学)
13. 測量御用絵図について (抄) —文化期の宇和島藩政記録から 齋藤敏夫 (順天堂)
14. 復元図の諸問題—石部宿歴史地図を例として—
中村静夫 (地図編集・自営)
15. 伊勢崎市宮郷における地租改正図の作成について—群馬県における地租改正図作成過程 第2報—
田島豊穂
16. 「浪花古図」について 武田 満子 (国土地理院)
17. 任意投影面における地形図の作成
武田隆夫 (国土地理院) ※田村清志 (国土地理院)
18. 霞ヶ浦流域汚濁負荷源分布図 (汚濁源マップ) について 入江光一・※知野隆二・橋本圭三郎 (国土地理院)
19. 数値地理情報に基づく全国沿岸域の特性把握の試み
※熊本洋太 (国土地理院) 岩田健治 (国際航業 KK)
20. ランドサット セマティック・マップデータによる衛星画像の作成について 星埜由尚・※政春尋志・日谷仁英・首藤隆夫・村上広史 (国土地理院)
21. 海図作成の自動化システム
※半沢 敬・上田秀敏・菊池真一 (水路部)
22. 電子写真方式による地図の自動校正システム
望月 敏雄 (フジレックス KK)
23. 非銀塩感光材料 (キモリス) について
杉山 靖典 (KK きもと)
- 講演 山口恵一郎「地図地名の諸問題」
シンポジウム 「地図技術者教育の現状と課題」
司会 金沢 敬 (東京カートグラフィツタ KK)、坂戸直輝 (国土地図 KK)
- 地図展・地図器材展併催
巡検 8月8日 (木)

横浜みなとみらい 21、昨日・今日・明日 (10:00~16:00)
日本丸見学・県立博物館見学・横浜税関資料展示室見学、産業貿易センタービル 9F・横浜開港資料館見学

【例 会】 昭和 59 年 11 月 17 日 (土) 14:00~17:30
日本地図センター

司会大:森八四郎 出席者 28 名 題目次の通り

- (1) 国際地図学協会 (ICA) 第 7 回総会及び第 12 回国際地図学会議 (オーストラリア パース) の報告 野村正七、高崎正義、金窪敏知、大竹一彦、太田 弘、今井健三、正井泰夫、五條英司
- (2) オーストラリア東海岸、ニュージーランド紀行

西村蹊二、山口恵一郎

第 117 回例会 昭和 60 年 7 月 13 日 (土) 14:00~16:00
日本地図センター5 階研修室 出席者 27 名

司会: 渡辺一夫

1. 教育用掛地図「大東京地形図」の作成意図

鶴飼幸雄 (郁文館高校)

2. 地図教育におけるパーソナルコンピュータ利用の可能性と問虜点

市瀬由自 (法政大学) ※山川克己 (法政大・院)

118 回例会 (第 21 回地方例会—富山)

昭和 60 年 11 月 10 日 (日) 10:00~17:00

富山県民全館 701 号室 富山地学会と共催

参加者 78 名

おもに富山大学実清 隆君、第 9 管区水路部その他の世話により開催。

10:00~12:00 巡視船「のと」による巡検「富山湾海底地形地図学習」

13:00~14:00 「地図展,85」を自由見学、

14:00~17:00 研究発表と講演、

17:30~19:30 研究発表

1. 石黒信由の測土方法と地図の精度 神前進一 (富山大学)

2. 「ランドサットを利用した土地利用区分」

藤井昭二 (富山大学) 石森繁樹※ (富山商船高専)

※は発表者

講演

1. 「国土地理院における最近の地図の動向」

松田博幸 (国土地理院)

2. 「戦後 40 年の地図作成の歩みと将来展望」

高崎正義 (日本地図センター)

1	24	評議員会(61年第1回) 常任委員会(第122回)
2	22	総会
3	13	編集委員会(第100回)
	26	常任委員会(第123回)
5	17	会員拡大委員会
	28	編集委員会(第101回)
	30	常任委員会(第124回)
7	15	常任委員会(第125回)
8	5~7	定期大会評議員会(61年第2回)
9	30	常任委員会(第126回)
10	18	選挙管理委員会(第1回)
	17	選挙委員会(第2回)
	21	編集委員会(第95回)
	28	常任委員会(第115回)

【総会】昭和61年2月23日(土) 14:00~15:00

日本地図センター研修室
出席者 60名 有効委任状 612通
議長：渡辺一夫(法政大学)
司会：小沢宣夫(日本地図センター)

議事

- 大竹会長代行同常任委員長より
1. 昭和60年度事業報告及収支報告
 2. 昭和60年度会計監査報告
 3. 昭和61年度事業計画(案)及び予算(案)
 4. 会則及び細則の変更(案)
 5. 会長選出について報告承認可決

講演

金窪敏知「最近の測量・地図作成の動向について」
会長交替

本学会会長野村正七氏の死去にともない後任の会長について昭和61年度総会で審議の末高崎正義氏(財団法人日本地図センター)に残任期をお願いすることに決めた。野村会長・大竹会長代理の残任期間を以降高崎会長とする。

In Memory of Dr Shoshichi Nomura 1915-1985

Shortly after the passing away of its distinguished member, Professor Akira Watanabe, the Japanese Cartographic Association suffered another great loss by the sudden death of its President, Dr. Shoshichi Nomura.

With gratitude, we recognize Dr. Nomura's meritorious contribution to cartography in general, and to the ICA in particular. During his lifetime he displayed an unusual combination of scientific talents and managerial abilities which predestined him as a much sought-after executive head of institutions and associations.

He graduated as a geographer from the University of Tokyo in the 1940s, did cartographic research at the University of Wisconsin in the 1950s, and was appointed Full Professor in Cartography at the Yokohama National

University in 1963. In 1972, Dr. Nomura was appointed Dean of the Faculty of Education of his university, followed by successive appointments as Director of the University Library in 1977 and as President of the University in 1979, a post he held for six years. His list of scientific publications clearly betrays a preference for map projections on which subject he published a substantial volume. Furthermore, he devoted much of his energy to atlas cartography, two large atlases appearing under his editorship, and to problems of education in cartography.

In 1972, Dr. Nomura made his appearance on the ICA scene in the capacity of Vice-President of the Executive Committee, selected by the General Assembly at Ottawa. During a second term of office he capably assisted in the efficient organization of the 10th ICA Conference in Tokyo in 1980. During the eight years of his vice-presidency, as we came to know Nomura better we learned to appreciate him as a good friend who by mildly critical interventions contributed constructively to ICA's well-being and prestige. Personally, I treasure memorable recollections of his hospitality during my visit, together with Secretary Hedbom, to Japan in 1979 in preparation for the 10th ICA Conference, when he and Dr. Watanabe as our chief hosts, initiated us in Japanese culture and tradition, introducing us to facets varying from Ikebana and Kabuki theatre to Sukiyaki and Sumo wrestling!

Our good Friend Shoshichi Nomura died from a cerebral hemorrhage on May 11 1985, Shortly after his retirement. a behalf of the international cartographic Association we Offer our sincere, condolences to Mrs. Nomura and her family and to the Japanese cartographic community.

F.J. Ormeling Snr./September 1985

ICA.NEWSLETTER No. 6 (1985年10月)に掲載された故野村前会長追悼記事

【大会】8月5日~7日 郁文館学園(東京都文京区)

地図展・地図器材展併催

研究発表

1. 大阪南部の水準点上下変動と土地条件
細井将右(国土地理院)
 2. 浪花古図同定図の地形の背景 武田満子(国土地理院)
 3. 「踊り子」の歩いた道を探す 中川浩一(茨城大学)
- 講演：佐藤任弘「海底地形図と海底地質学」
4. マレーシアのナショナル・アトラスの特色
渡辺一夫(法政大学)
 5. 都市における地図情報の数値化 鈴木芳朗(日本大学)
 6. SPOT データによる地図作成
村中泰志(リモートセンシング技術センター)
 7. 大縮尺の等高線図編集作業で困ったこと 黒部市
大縮尺図の標高 籠瀬良明(日本大学)

8. NCM システムについて
 ※柳田 聡、小野邦彦、安藤保隆、緑川文典 (NCM)
9. デジタル・マッピングの標準的手法による試作図
 について 星埜由尚、※稲葉和雄 (国土地理院)
10. 数値情報データを用いた小縮尺図の地形表現につ
 いて 木下章、岡庭直久 (国土地理院)
11. シービームデータを使った海底地形図及び三次元
 鳥瞰図の作成について 浅田 昭 (水路部)
12. 世界地図編集著作の基本問題 池田正友(元国土地理院)
13. 国土地理院の地盤沈下調査について―鶴見川流域
 地盤高図を例に―
 ※橋本圭三郎、田口益雄、関崎賢一 (国土地理院)
14. 沿岸漁場開発のための環境図集について
 ※熊本洋太、佐藤宗一郎 (国土地理院)
15. 電子海図の現状と問題点 八島邦夫 (水路部)
16. 多色刷地形分類図と地図表現―最近の「地図」添
 付地図の批判的検討― 羽田野誠一 (国土地理院)
17. 元禄期における仙台領封域内の測図事業について (抄)
 斎藤敏夫 (順天堂)
18. 新 1 万分 1 地形図の情報とその利用
 五條英司 (日本大学)
19. 日本における地形と土地利用の関連―メッシュ法
 による分析― 瀬戸玲子 (明治大学)
20. 地図は僕たちが作るもの―地図編集の手法を用いた
 地形図の読図作業から― 太田田 弘 (慶応義塾普通部)
21. 土地利用景からみた土地条件 ―郷土学習との関
 わりの中で― 新田牧雄 (川口市立川口高校)
22. 地域的空間認識の形成に関する―予測―メンタルマッ
 プの分析を通して― 初沢敏生(埼玉大学教育学部研究生)
23. 地理教育と地図教育の問題点 鶴飼幸雄 (郁文館高校)
- シンポジウム
 「小・中・高校における地図教育のあり方」
 座長：佐藤甚次郎 (日本女子大)、清水靖夫 (立教高校)

話題提供者：飯村義雄 (緑岡小学校)、井口悦男 (慶
 応義塾中等部)、中村宗敏 (武蔵野女子学院)
 巡検：NHK 放送センターと東海大学放送技術センター

【例 会】

第 119 回 昭和 60 年 12 月 6 日 (金) 14:00～17:00
 日本地図センター

司会：小沢宣夫、参加者 42 名。

1. 最近における中国の地図事情 金窪敏知 (国土地理院)
2. 最近における中国の地図事情―製図関係―
 並松武雄 (KK きもと)
3. 最近における中国の地図事情―図化関係―
 瀬戸孝夫 (KK 測機舎)

第 120 回例会 昭和 61 年 3 月 15 日 (土) 14:00～16:30
 日本大学文理学部地図学教室。参加 19 名。

1. 日本大学所蔵のプトレオマイオス地図帳 (1513 年
 ストラスブルク編) について 立石友男 (日本大学)
2. 明治初期の地図と海岸地形の一例
 田村勝正 (東京農業大学)

第 121 回 (第 22 同地方例会仙台)

昭和 61 年 9 月 23 日 (火) 10:00～17:30
 戦災復興記念館。

第 122 回 昭和 61 年 10 月 18 日 (土) 14:00～16:00
 日本地図センター5 階研修室 参加者 43 名

今回は「開発途上国における地図作成の現況」と
 という題目で下記の発表を行った。

司会 野々村邦夫。

1. フィリピンにおける地図作成事情
 今吉文吉 (日本水路協会)
2. サウジアラビアにおける地図作成事情
 上西時彦 (国土地理院)
3. パナマにおける地図作成事情
 橋本良一 (国土地理院)

1	30	常任委員会 (128回)
2	28	総会
	28	評議員会 (62年第1回)
	27	編集委員会 (第104回)
3	23	常任委員会 (129回)
5	1	Cartographic Activities in Japan編集委 (第8回)
	19	運営方針検討会 (第1回)
	20	Cartographic Activities in Japan編集委 (第9回)
	25	常任委員会 (第130回)
6	5	運営方針検討会 (第2回)
	8	Cartographic Activities in Japan編集委 (第10回)
7	17	運営方針検討会 (第8回)
	17	常任委員会 (第131回)
	23	集会委員会 定期大会 運営委員会
8	5~6	昭和62年度大会
	5	評議員会 (第2回) 顧問・参与会
9	7	編集委員会 (第106回)
9	25	常任委員会 (第132回)
11	19	編集委員会 (第107回)
	27	常任委員会 (第133回)

【トピック】

地理的情報システムに関する国際会議

1987年9月14日~18日 ポルトガルのリスボンで開催
ICA(国際地図学協会)第8回総会及び第13回国際地図学会議
1987年10月12日~21日 メキシコのモレリアにて開催

【総会】 2月28日(土) 14:00-15:00

日本地図センター6階研修室
出席者 76名委任状提出 607通
議長:渡辺一夫(法政大学)
司会:小沢宣夫(日本地図センター)

あいさつ高崎正義会長

大竹一彦常任委員長より案件の報告主旨説明後承認された。

総会前に映画(川と街)を上映

議事

1. 昭和61年度事業報告及び収支決算報告
2. 昭和61年度会計監査報告
3. 昭和62年度事業計画案の審議
4. 昭和62~63年度役員選出
5. その他

講演

平井 雄「地図データベースと都市情報システム」

【大会】 昭和62年8月5~7日

海上保安庁水路部(東京都中央区)

研究発表

1. 新しい海図図式 (広瀬貞雄)
2. 離島の海の基本図について(鎌形捨己・中條久雄)
3. 日本の近代海図を育成した忘れられぬ人々について(斎藤敏夫)

4. 〈発表中止〉
5. 地方都市の緑化景観 (前田吉穂)
6. 専門学校における地図製図教育の実際—製図科、測量工学科地図専攻を例として (水沢和人)
7. プロセッサによる多色地図への応用 (上村淳一・渡辺 武・龍原伸治・田中康夫)
8. 多色原図のカラー分類について (飯島鎮夫)
9. 中縮尺図のCPT表示について(浦部ぼくろう・宮内 守)
10. CCPSを使った土地利用図の作製について (斎藤保・高橋義昭・萩本正浩・青木宏人)
11. スポットデータによる地形図作成技術の開発 (嶋本孝平・江野沢誠・淵本正隆)
12. OR1 photomap の発展動向—南極昭和基地付近立体写真地図の試作— (野村治恭・森脇喜一・羽田野誠一・関 義治)
13. 高等学校地理における略地図利用の一考察—とくに緯線、経線を考察して— (高野俊彦)
14. 都市内部の地域構造と地形図 (新田牧雄)
15. 雑誌「科学」所載の世界地図—社会科の世界地図指導内容の改変とかかわりあったか— (小椋憲臣)
16. 初期の世界地図帳等に見る南米—パリマ湖— (細井将右)
17. 中国の地図地名 (池田正友)
18. カルトグラフア—としての北浦定政 (木全敬蔵)
19. 航空従事者の地文航法での地図利用と空間認識についての一考察 (太田弘・紺谷均)
20. 沿岸海域基礎調査図の"見直し"について—国の機関で行う地理調査の役割— (羽田野誠一)
21. 大縮尺地図記号の構成要素分析とサブルーチン化 (鈴木芳朗・星 仰)

講演 吉田栄夫「最近の南極観測とその国際的背景」
シンポジウム

海の地図 フォーラム 「海、地図、その未来」

海洋情報と海の地図、地理教育と海の地図の利用及び実習、古地図及び測量技術と作成、データの数値化 管理 海図の作成の自動化 地図情報による地図作成の自動化、沿岸海域土地条件図と各種の広域図の作成、レクリエーション読図について多方面からの見解と討論が行われた。

地図、図書、器材が展示即売された。

巡検 8月7日

測量船 拓洋にて13号地から川崎、京葉シーバスで折り返す行程で船内見学、観測器具と説明があり天気に恵まれた。

【例会】

第123回 日本地図センター

1. 国際地図学シンポジウム (後藤良一)
2. Auto Carto London (星埜由尚)

- 3. 武漢地図学国際セミナー (金澤 敬)
- 4. IFLA 東京会議 (森田 喬)

第 124 回 日本地図センター

- 1. 読図及び空中写真判読を中心にして (金窪敏知)
- 2. 現地調査結果 噴出物量の計測及び「火山噴出物等分布図」の作成について (長岡正利)

第 125 回 関東地方測量部

- 1. 眼球運動測定による地図デザイン評価 (森田 喬)
- 2. 学校地図帖地図の縮尺シリーズのデザイン (金澤 敬)
- 3. 日本における触地図記号の標準化について (加藤俊和)
- 4. CCPS を利用した地形図情報の数値化 (矢口 彰・村上広史・奥山祥司・永井信夫)
- 5. コンピュータ利用した等高線総描について (永井信夫・西 啓・中川勝登)
- 6. ニューメディア時代の地図教育 (太田 弘)

第 126 回 関東地方測量部

- 大縮尺の地図、地籍図とその周辺 (籠瀬良明・佐藤甚次郎・伊藤 等)

【専門部会】

- 地図用語 地図学用語辞典のアンケート集計の検討
- 地図言語 ICA「地図の概念」についてのシナリオ作成
- 地図図式 西欧諸国の地形図図式の共通項目の作成
- 都市地図 講演 du Shu Fen 南京師範大
- 地図教育 学校教育の中の一般教育から地図専門家教育訓練分科会を分離するについての検討、地図用語部会と合同部会の開催地図帳の検討及び指導書手引作成の継続

【その他】

—専門部会の参加について—

当会には下記の 11 の専門部会があります。部会には会員ならば、いつでも参加できます。専門部会は、それぞれの活動をしてはいますが、その活性化をはかるためにも関心のあるかたがたの積極的な参加を希望しています。

専門部会の開催日程については、参加希望の部会名を明記のうえ学会事務局へご連絡下さい。ご返事にてお知らせいたします。今後ひきつづいて参加されたい方の場合もその旨書き添えて下さい。

なお詳細をお知りになりたい方は各主査へご連絡下さい。(事務局)

地図用語	主査	坂戸直輝	海洋図	主査	西沢邦和
地図教育	〃	鶴飼幸雄	地図自動化	〃	田中康夫
地図図式	〃	五條英司	都市地図	〃	正井泰夫
地図複作	〃	入佐俊至	触地図	〃	加藤俊和
地図史	〃	清水靖夫	地図言語	〃	金窪敏知
地図帳	〃	渡辺一夫			

—機関誌の組み方の改変について—

機関誌「地図」の紙面を明るくし、少しでも読みやすくするため、今年度から活字の組み方を若干改変した。すなわち、論文論説は従来より少し行間をあける、地図ニュース等は字大を論文なみに 8 ポに上げる、学会記事等は 3 段組みを 2 段組みにする、などである。

当面はこの組み方によることとし、さらに改変すべき点があれば検討していく。(編集委員会)

1	28	評議員会(63年第1回) 常任委員会(第134回)
2	27	総会
3	23	常任委員会 (第135回)
4	15	編集委員会 (第108回)
5	11	定期大会運営会議
	24	常任委員会 (第136回)
7	1	編集委員会 (第109回)
	15	常任委員会 (第137回)
8	3	評議員会 (第2回) (顧問 参与会合同)
	3~4	定期大会
	29	編集委員会 (第110回)
9	30	常任委員会 (第138回)
	15	選挙委員会 (第1回)
11	10	編集委員会 (第111回)
	25	拡大企画委員会(第1回) 常任委員会(第39回)
12	16	拡大企画委員会 (第2回)

【総 会】 2月 27 日 (土) 13:30-16:15
 日本地図センター (財) 6 階研修室
 出席者 62 名委任状 618 通
 議長: 五條英司 (日本大学)
 司会: 小沢宣夫 (日本地図センター)

あいさつ 高崎正義会長

大竹一彦常任委員長より案件の報告主旨説明後承認された。

総会前に映画「ゆれる大地」上映

議事

1. 昭和 62 年度事業報告及び昭和 62 年度収支決算報告
2. 昭和 62 年度会計監査報告
3. 昭和 63 年度事業計画 (案) 及び予算 (案) の審議
4. その他

講演

村井俊治「写真測量・リモートセンシングの最近の話題」

学会事務局の移動

学会の事務局は従来 (財) 日本地図センターの 1 階にある調査部のなかに置かれていたが、昭和 63 年 1 月調査部の移動にともない、5 階に移った。宛先・電話番号は従来通り。

【大 会】

昭和 63 年 8 月 3 日~5 日

法政大学工学部 (東京都小金井市)

8 月 3 日 映画 20 年後の東京

研究発表 特別講演 評議員会 懇親会 地図展器材展

4 日 映画マイタウン東京-21 世紀への豊かな展開

研究発表 ポスターセッション 校内見学 専

門部会 地図展器材展

研究発表

1. 明治以前の基本図-地質図の基図-新潟県の例 (清水靖夫)
2. 日本の古代地図について (池田正友)
3. 享保日本絵図作成に起因せる久保田蕃見当山国絵

- 図の一件 (斉藤敏夫)
4. フンボルトによるオリノコ川流域の地図 (細井将右)
5. 九州地方土木地質図 (津沢正晴)
6. 航法の試みから見た 2 万 5 千分の 1 図への提案-50cc バイクでの地図利用・川崎市を例に- (関口正雄)
7. 海図調製における写真植字の貼込み並びに修正技術について (尾花光雄)
8. 海洋レジャー用海図に関する二、三の原理 (今井健三)
9. 自動図化方式による海図の編集作図-これまでの成果を例として (半沢 敬・城 勝利)
10. 地図投影の問題-球と楕円の取扱い- (金澤 敬)
11. ソ連の地図帳 2 点その特徴について-「バイカル地方アトラス」および「アゼルバイジャン共和国アトラス」 (渡辺一夫)
12. 高校地理教育における地図学習大縮尺地図の学習内容について (伊藤 等)
13. 「新しい地図教育」を構成する教材の開発とその要素について (太田弘)
14. 地域的にみた横浜市の都市農業の方向-農業用地区を調査して- (北村 清)
15. 光ファイリング装置を利用した旧版地図の交付システム (大地賢一・瀧田 好)
16. 記憶復元地図の作成-旧満州公主嶺市街図- (金窪敏知)
17. 半自動画像追跡型デジタイザをもつ縮図システムについて (根本寿男)
18. CCPS を使った土地利用図の自動属性付与方法について (藤巻治雄・斉藤 保・青木宏人)
19. カラー静電プロッターによるフィルム出図の特徴 (加藤敏夫)
20. 主題図作成用画像システム-ERDAS- (島村秀樹・四方田重昭・石井秀樹)

講演: 高崎正義 「地図学の解放-1945 年以降の地図学の動向とその将来-」

ポスターセッション

学校地図教育パーソナルコンピューターによるミニ地理情報システム (GIS) の作成とその利用 (太田弘)
 地図、図書、器材が展示即売された。

巡検: 8 月 5 日

地図で見る多摩ニュータウン、西多摩巡検

【例 会】

第 127 回国土地理院関東地方測量部 (出席者 18 名)
 国際地図学協会第 8 回総会および第 13 回国際地図学会の報告 高崎正義 金窪敏知 五條英司 正井泰夫

第 128 回日本地図センター (出席者 12 名)
 開発途上国における地図作製技術について

(小山田安宏 渡辺一夫)

第 130 回日本地図センター (出席者 27 名)

小中高校における地図教育の体系化ミニシンポジウム
(司会：伊藤等)

【専門部会の活動状況】

地図用語

1) 経過報告

- i) 昭和63年1月からは2回の部会を、それぞれ、水路部会議室、日本地図センター会議室で開催。
- ii) 従前から行っていた用語辞典再版に採択候補の用語についての検討、審議は終了した。
- iii) 部会では上記の審議のほか、辞典全般に亘り追加しなければならぬ重要な用語若干について論議した。
- iv) ICA-MDC (地図学用語多言語辞典) 第2版の刊行について、担当のProf. Dr. Neumann から当方の対応についての協力依頼があったので、今まで通り全面協力の旨、なお校正については対応が十分できている旨返信した。

2) 今後の計画

- i) 用語辞典の再版についての基本方針をきめる段階にきているので、部会の方針をもとに、小委員会を開催し、編集計画をたてる。
- ii) 編集計画に従い編集専門委員等を中心として、具体的編集原稿作成にとりかかる。
- iii) JCA-MDC の第2版の初版については、担当のProf. Dr. Neumann と随時連絡をとっていく。
- iv) 地図教育専門部会との合同部会を適宜開催し、地図教育に使われる用語の範囲などについて検討していく。
- v) ICA「地図学の定義」作業部会の国内の担当、太田委員との連携をとっていく。
- vi) 地図用語の各項目別カード(学会保管)の整備については、担当の作業専門の小委員会により実施する。

地図教育

本年度から各専門部会がそれぞれの年度計画を立案し、その計画の下に部会を開催している。昭和63年上半期の活動目的は「教育全般にわたって地図用語の適切な理解・応用がなされているか」という現状の把握を基礎に、作業の主体は、現行の初等中等教育に使用されている各教科書会社発行の教科書・地図帳に記載されている地図用語を総点検しつつ、よりよき地図教育の充実を期してゆくことになった。当面は地図教育専門部会が毎月第3木曜日に部会を持ち、定期的に作業を進めている。本年度の定期大会のなかで、昨年に続き第2回の地図用語専門部会との合同部会を持ち、秋には例会でミニシンポジウム「小・中・高校における地図教育の体系化」を開催する予定である。

地図図式

本部会では、主要国の基本図(縮尺1:25,000または1:50,000)の図式記号対照表の作成を目的として、作業をす

すてめいる。このほど、イギリス・フランス・アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドについての、図式項目の対照表(試案)を作成した。

今後、西ドイツ・デンマーク・中南米および日本の各図式項目を加えるとともに、項目の分類・配列を再検討し、図式項目対照表をとりまとめることとしている。

将来は、これに図式記号(図形)を加え、対照表として完成することを考えている。

地図史

Vol. 26No. 2で図歴調査(所在調査)の関東地方が完了した。国土地理院、国会図書館の該当図の所在を示したが、その右方に空欄が設けてあるので、諸兄にはそれぞれの部署の所在を描き込めるようにしてある。ひきつづき東北地方の図歴調査をすすめ掲載するので、大方の援助をお願いする。

地図言語

昨年のモレリア(メキシコ)のICA(国際地図学協会)の総会で設置された「地図学の概念」委員会(主査・金塚敏知)の活動に伴い、地図言語部会は本委員会の事務局として機能してきた。事務局では従来の地図言語部会の中に世話人会和数人の協力者によって構成する「ICA 地図学の概念に関する地図言語部会小委員会」を設置し、年4回の委員会通信(サーキュラー)を発行するべく作業を進めている。昨年の11月に第1通信を発行し、続いて88年夏の東京委員会会合の提案を3月、5月に委員宛てに送付してきた。作業課題の進行状況としては、小委員会を4、5、6月と実施し、「地図学の概念」、「理論地図学」に関する基本文献の収集と文献整理用のフォーマットの作成を行って来た。第2通信はほぼ完成した文献整理フォーマットを添付して、7月末に送付される予定で進められている。夏の東京委員会の開催はこの夏の各国委員のIGUやその他の国際会議のスケジュールにより、実施は見送られた。

また、従来からの通常の地図言語部会の研究集会は、10月に「オリエンテーリング地図」に関する研究集会を所沢の早稲田大学人間科学部において、実際にオリエンテーリングを実行して行う予定である。合せて、「地図」Vol. 26のNo. 3に添付地図として「早稲田大学所沢キャンパス、オリエンテーリング・マップ」を予定している。

触地図

今年4月、ロンドンにおいて、6年ぶりに第2回触地図・触図シンポジウムが開催された。日本からは当専門部会員の石堂雄士氏が参加され、日本の発泡印刷による触地図製作の技術を詳しく紹介された。これは非常に優れた技術として日本から世界に広まりつつあり、ハード面、ソフト面ともに参加者の注目を集めた。なお部会は今年度第1回委員会を8月20日に開催し、上記シンポジウム報告などを行う予定である。

2	2	評議員会 (平成元年第1回)
		常任委員会 (第140回)
	7	編集委員会 (第112回)
	25	評議員会 (第2回)
	25	総会
3	23	常任委員会 (第141回)
5	18	常任委員会 (第142回)
7	14	常任委員会 (第143回)
8	2	評議員会 (第3回)
	2~4	研究発表大会
	23	編集委員会 (第114回)
	29	常任委員会 (第144回)
11	14	編集委員会 (第115回)
12	1	常任委員会 (第145回)

【総会】 2月25日(土) 14:00-15:00
 日本地図センター 6階研修室
 出席者60名 委任状582通
 議長: 田中高行 (中央地区株)
 司会: 渡辺一夫 (法政大学)

あいさつ 高崎正義会長
 大竹一彦常任委員長より案件の報告 主旨説明後承認
 総会前に上映 (測量と地図)

議事

1. 昭和63年度事業報告及び昭和63年度収支決算報告
2. 昭和63年度会計監査報告
3. 平成元年度事業計画(案)及び予算(案)の審議
4. 第14期(平成元~2年度)役員の選出
5. その他

講演; 西川 治 「世界地図史と日本国論の展開」

【大会】 平成元年8月2日~4日
 科学技術庁研究交流センター (つくば市)

研究発表

1. 高校社会科地理教育における地図学習 (伊藤 等)
2. 高校地理授業展開における地図利用—消費者買物行動の評価 意見資料と商業集積地内部構造分析資料を通しての地域環境把握— (新田牧雄)
3. 高等学校地理教育における地図の取扱いについて (菊沢津生)
4. 身近な地域の学習の単元における「地図の作成」の手法を用いた学習 (太田 弘)
5. 植木生産からみた伊丹台地北部の土地利用 (ト部勝彦)
6. 新刊のグレートブリテン地図帳 (オードナンス サーヴェイ刊ナショナルアトラス1986年) について (渡辺一夫)
7. レジャー用海図編集の基本的な考え方について—イギリス、オーストラリアを例として— (今井健三)
8. 2万5千分の1地形図の表示された山の高さに関する問題について (野々村邦夫・長岡正利・坪田清一・東海林日出男)

9. 2万5千分の1地形図部分補正について (石渡喜代治・関 義治)
 10. 1万分の1明治VS平成「日本橋」「新宿」について (野々村邦夫・川崎真嗣・西村 滋)
 11. 「輿地誌略」中の地図と地名 (細井将右)
 12. 古地図の複製 (岩田盛之輔)
 13. 集成図「つくば」の試作について (渡辺 武・白戸信一・横山正昭・大桃浩一・中川 俊)
 14. 「地盤沈下アトラス」の作成について (長岡正利・岡田直久・宇根 寛・後藤 隆)
 15. ロビンソン図法とペーテル図法—世界全区表現における系譜の考察— (金澤 敬)
 16. 田中吉郎氏「明暗等高線」を用いた多色地図の試み (西 啓・渡辺照男・羽田野誠一)
 17. 静電プロッターを利用した海図原版の製作 (尾花光雄・打田明雄)
 18. コンピューターマッピングの背景図に関する実験について (栗原昭八)
 19. ワークステーションによる地形図のデジタル修正および自動製図技術 (中島秀敏・根本寿男・佐藤敏郎)
 20. クウェートプロジェクトにおけるマッピングの紹介 (佐田英二・淵本正隆)
 21. 会話認識による地形図情報の数値化 (鎌田高造)
 22. 全国デジタル道路地図データベースについて (奥村晃三)
- 8月2日 研究発表 ビデオ (地球を読む) 評議員会
 シンポジウム 懇親会 地図展 地図器材展
- 3日 研究発表 ビデオ (情報化社会の地図作り—デジタルマッピング—) 講演 専門部会
 地図展 地図器材展
- 4日 巡検
 講演: 大竹一彦「国土地理院の地図の現況と今後の動向」
 シンポジウム 「地形図にもの申す」
 学校教育 行政 野外調査 趣味的立場から地図を考える
 地図、図書、器材展示、即売された。
- 巡検: 8月4日 国土地理院見学

【例会】

- 第132回 日本地図センター (出席者40名)
 地図教育の視点から、新指導要領を読む
 (渋澤文隆・中川浩一・田代 博・太田 弘・吉田和義)
- 第133回 相愛高等学校 (出席者30名)
1. デジタル手法による地図作成 (永井信夫)
 2. 平面地図入門期における空間認識の発達とその指導 (相部芳徳)
 3. 戦前日本空中写真抄史 (船越昭生)
 4. 戦前の写真測量 (小島宗治)
- 第134回 日本地図センター (出席者13名)
 ICA 第14回国際地図学会議提出論文
 (木下 章・岩瀬三夫・八木新太郎・寺林敬之・

【専門部会及びマップセンターの活動状況】

地図用語

従来から行っている関係誌に掲載された地図学用語に対する書評について、その内容の調査結果の一覧表により検討を続行した。これらの用語の審議は一応終了した。

辞典全般に亘り、地図学として追加しなければならない重要な用語について検討、審議を行った。

63年度の定期大会のときに地図教育専門部会と第2回目の合同部会を行った。正しい地図用語をその教育段階で、どう教えていくかということが主旨であった。

② 平成元年度の計画

- (イ) 地図学用語辞典の再版計画の準備、具体的な原稿作成にとりかかる。
- (ロ) ICA-MDC (地図学用語多国語辞典) の第2版の初校刷りに対する校正作業
(Dr. Neumann と関係をとっていく—63年12月同氏に進行状況を問い合わせ中)。
- (ハ) 地図教育専門部会との合同部会を開催。前年にひきつづき地図教育に使われる地図用語の体系付けについて協力する。
- (ニ) IGU の計画に呼応し、日本地理学会で作業中の地理学用語辞典のうちの「測量・地図の部」の国内委員 (高崎委員) に協力する。
- (ホ) ICA の「地図学の定義」作業部会の国内担当委員 (太田委員) と連絡をとる。
- (ヘ) 学会事務局に保管の未整理の地図用語カードを最新状況に維持する。

地図教育

従来からの「児童・生徒の発達段階に応じた地図教育」という基本テーマを続行してきたが、定期大会中に法政大学小金井校舎において会員の自由参加を求めて地図教育・地図用語の合同専門部会を開催した。テーマは「教育全般に亘って地図用語の適切な理解・応答がなされているか」という問題点の所在に対する意見が交換された。結果として、全体との関連に意を用いながら今後の作業の主体は、各分科会に分かれて実施してゆく。

地図史

前年にひきつづき、地形図類の所在調査を行った。昭和63(1988)年度で関東地方の所在と図歴表(5万分の1地形図)の発表が終了した。ひきつづき平成元(1989)年度は、東北地方の所在と図歴表(5万分の1地形図)を機関誌上に発表する予定。

地図言語

昭和63年度後半の報告

本部会は発足以来、地図学に関する基礎的な研究テーマを設けて研究会を開催している。この数年は、部会内に小委員会を設け主にICAの中に設置された「地図学の概念に関する委員会(委員長、金窪敏知)」の日本国内委員会として機能してきた。昨年夏の学

術大会時の8月上旬には、先のICAの「地図学の概念と方法論」に関する委員会の委員長で西ドイツ地図学会々長のフライターク氏(ベルリン自由大学)を迎えて委員会を国内小委員会とともに開催した。また、地図言語部会として、研究例会を10月下旬に「オリエンテーリング・マップの言語」と題し、新装まもない早稲田大学所沢キャンパスをフィールドにして実施した。平成元年の今年度は、夏のICA、ブタペスト学術大会に向けての「地図学の概念に関する委員会」の作業項目である「理論地図学の基本文献に関するデータ・ベース作成」の仕事を中心に進める。

触地図

第5回専門部会は、8月20日に戸山サンライズで開催し、ロンドンのキングカレッジで5年ぶりに行なわれた。視覚障害者の地図・図形に関する第2回国際シンポジウムに参加して石堂会員(手で見る絵本普及会)から、会議及び展示会等についての報告を受け、討議を行った。

第6回専門部会は11月5日に日本点字図書館で開催し、'89横浜博覧会協賛として計画中の「触地図国際シンポジウム—指で見る地図の世界—」の立案・検討を行った。

同シンポジウムは、触地図の推進者でもあるICA事務局長のD.ピアス氏ら各国から4氏を招いて、7月25日に横浜国際会議場で開催する予定である。

当部会は、1985年に発足以来、触地図の基本的な事項の学習を中心に活動を行ってきたが、今後は主題別に図式を整理していくことなども含め、新たな取り組みを進めていくことが望まれており、1989年度は「シンポジウム」をぜひ成功させて、今後の活動への礎としたい。

マップセンター

昭和63年度活動状況は次の通りである。

①外国雑誌(学会に送付された分)

フランス 2種6冊	ハンガリー 1種2冊
中国 2種10冊	ソ連 1種10冊
チェコスロバキア 1種2冊	オーストラリア 1種31冊
東ドイツ 2種6冊	西ドイツ 1種1冊

11種40冊

②国内の刊行物(学会に送付された分)

- 国土地理院の地理調査部研究報告書
- 海上保安庁水路部の研究報告
- 日本学術会議の日本の学術研究動向等、36種の寄贈をうけた。

③地図展示 8月の大会時に、会員各位の協力を得て、法政大学工学部において開催。

1	26	評議員会 (平成2年第1回)
		常任委員会 (第146回)
2	14	編集委員会 (第116回)
	24	総会
3	23	常任委員会 (第147回)
5	11	編集委員会 (第117回)
	30	常任委員会 (第148回)
6	8	平成2年度定期大会 運営会議 (第2回)
	27	拡大企画委員会 (第1回)
7	18	Cartographic Activities in Japan編集委員会 (第3回)
	19	拡大企画委員会 (第2回)
		常任委員会 (第148回)
8	21-23	定期大会
	31	編集委員会 (第118回)
9	17	拡大企画委 (第3回)
	28	常任委員会 (第150回)
10	26	選挙管理委 (第1回)
	28-29	例会 (第135回) (第25回地方大会・広島)

【総会】 平成2年2月24日(土) 14:00-15:00
 日本地図センター6階研修室
 出席者60名 委任状605通
 議長:渡辺一夫(法政大学)
 司会:伊藤等(日大豊山女子高)

あいさつ 高崎正義会長
 大竹一彦常任委員長より 案件の報告 主旨説明
 後承認された。

総会前にビデオ「ICAブタペスト会議点描
 第14回地図学会議レポート」放映

議事

1. 平成元年度事業報告及び同収支決算報告
2. 平成元年度会計監査報告
3. 平成2年度事業計画(案)及び予算(案)の審議
4. その他

講演

吉野正敏「小気候の図的表現について—地球環境
 問題とのかかわりからみた—」

【大会】 平成2年8月21日~23日
 日本大学経済学部本館(東京都千代田区)

21日 研究発表
 ビデオ(地球は今ここに生まれる)—北フィジー
 海盆リフト系の日仏共同調査レポート
 評議員会 特別講演 懇親会 地図展 器材展

22日 研究発表 ビデオ 専門部会 シンポジウム

23日 巡検

研究発表

1. 「地理全志」中の地図と地名 (細井将右)

2. 浪花古図(A図・B図)の現在地名について(武田満子)
 3. 図歴表調査について(喜多昭一・清水靖夫)
 4. 1万分1地形図デザインについて(西村 滋・古屋正樹)
 5. 2万5千分の1図への提案—走行用の地図をめざして(関口正雄)
 6. 新しいタイプの5万分の1地形図作成(吉川正幸)
 7. 戦前、戦後の地形図の等高線—新潟県見附市の水田地域での比較(籠瀬良明)
 8. 地図と画像の重ね合せ処理のイメージ(淵本正隆・五味謙隆・山本正直)
 9. 電子海図海上試験について(内城勝利)
 10. ホログラフィー立体地図の作成(小出正則・滝田 好・小井土今朝己)
 11. 標高データによる平野部の地形表現の試み 集成図「つくば」の例(木下 章・椎橋真澄)
 12. 市販地図用紙の開発(矢島雄三)
 13. 地図用新材料ダイヤスクライブ(ジアズスクライブ)(小滝良晴)
 14. アジア、ハイウェイルートマップについて(今井継彦)
 15. 海域利用と「海の地図」について—瀬戸内海における二、三の事例—(今井健三)
 16. ナショナルアトラス第二版について(萩野喜助)
 17. 火山土地条件図の表現について(関口辰夫)
 18. 地名データベース試案(木全敬蔵)
 19. パソコン地図システムの開発について(高橋義昭)
 20. 5万分1地形図のコンピューター支援編集への試み(本庄 豊・中島秀敏・根本寿男・佐藤)
 21. 地形図図式記号項目の国際比較(五條英司)
 22. 地形図基準による全国市町村別面積の測定とその改訂について(長岡正利・三浦 真・阿部正勝・吉村保・小松 隆・船津裕司・吉成秀勝)
 23. 坂の地図記号化—等高線指導と関連して—(山口幸男・梅沢志保)
 24. 高等学校社会科地理教育における地図指導—地図学習で利用する小縮尺図法について—(伊藤 等)
 25. 高等学校社会科における地形図活用の一私案(新田牧雄)
- 講演:矢守一彦「都市景観図のたのしみ」
 シンポジウム:「地図出版の新しい動き」

地図出版界の現状の紹介、全般的な傾向、道路地図、住宅地図の将来について紹介され、多方面から議論された。

地図、図書、器材等が展示、即売された。

巡検:8月23日

東京港巡検は、東京都港湾局の新東京丸で、東京港を見学、強風のため早めにすました。東京ガスの地下配管マッピングシステムの管理システムを見学、地図との関連について説明された。

【例会】

第 135 回—第 25 回地方大会 広島地方大会 地理科学学会と共催

広島大学文学部大講義室

(出席者 67 名 (内本学会員 32 名))

28 日 海上巡検の解説講和会

広島湾北部海上巡検地図展

29 日 シンポジウム 地図展

シンポジウム 「地図と地理認識」

1. 主旨説明 堀 信行

2. 課題報告

「地図を考える」「地図の世界」花咲く

地図界と未解決の諸問題 正井泰夫

小学校における地図の使用 岩本廣実

地形分類図の手法とその問題点 林 正久

近世絵図の地図性 川村博忠

主題図の地図設計 森田 喬

地図表現と情報処理システム利用環境 吉本剛典

「地図に親しむ」「地図を豊かにする」「地図の開く世界」

3. 総合討論 西川 治

総括

海上巡検 第六管本部設標船「ぎんが」に乗船

広島港～大須瀬戸～宮島瀬戸～宇品港～広島港

海図の読図、海上交通、レジャー船位測定実習

地図展

第 136 回 日本地図センター (出席者 24 名)

第 14 回 国際地図学会議 (ブタペスト) 報告

会議の概況、ハンガリー、ブタペストで開催、地理情報システム (GIS)、自動化、リモートセンシング、アトラス、観光地図、土地と環境、教育、主題

目作成、理論のテーマ毎に発表された。各委員会は 6 委員会と作業部会及び地図展、技術展が併催された。

(金窪敏知・細井将右・金澤 敬・稲垣 猛・太田 弘・高崎正義)

第 137 回 日本地図センター (出席者 24 名)

中国の地図事情

1. 中国の都市地図について

(尹 貢武：武漢測絵科技大学副教授)

第 138 回 日本地図センター (出席者 27 名)

1. マニラ都市基本図について (高崎正義・長岡正利)

2. バンコク首都圏地形図について (金窪敏知・池島 功)

【専門部会】

地図教育

学校教育における地図用語の検討。地図利用マニュアルの作成。地図教育訓練専門部会を分離独立させる。

地図用語

IGU の地理学用語辞典の中、地図学について、用語の仮決定を行った。

地図図式

各国 (9 ヶ国) の地形図図式対照表の改正案提示、中南米を含める最終案を検討する。

地図複作、地図自動化

数値データベースの交換標準に関する世界の動向、地図注記のデジタル処理についての講演会を開催。

地図言語

ICA、地図学の概念委員会への対応のため、部会として文献資料の整理を 10 数回実施。

- 1 10 編集会議(割り付け)
- 2 1 評議員会(3年第1回) 常任委員会(第152回) 合同
- 5 選挙管理委員会(第2回)
- 8 編集委員会(第120回)
- 15 マップセンター会議(3年第1回)
- 23 総会
- 23 評議員会(第2回)
- 3 1 マップセンター(3年第2回)
- 4 編集委員会(第12回)
- 7 マップセンター(3年第3回)
- 29 常任委員会(第153回)
- 4 20 第42回例会
- 20 拡大企画委員会(第5回)
- 20 定期大会運営委員会(3年度第1回)
- 5 24 編集委員会(第122回)
- 29 常任委員会(第145回)
- 29 30周年事業企画委員会(第3回)
- 6 5 定期大会運営委員会(第2回)
- 14 編集会議(割り付け)
- 15 第143回例会
- 7 2 30周年事業企画委員会(第4回)
- 18 常任委員会(第146回)
- 18 30周年記念事業企画委員会(第5回)
- 8 8~10 定期大会
- 8 8 評議員会(第3回) 顧問参加会(合同)
- 29 30周年記念事業企画委員会(第6回)
- 29 編集委員会(第123回)
- 9 17 30周年記念事業企画委員会(第7回)
- 19 編集会議(割り付け)
- 10 1 国際地図学協会第9回総会、第15回国際地図学会議(イギリス、ポーンマス)
- 9 30 常任委員会(第156回) 第144回例会-仙台-(第27回地方大会)
- 11 7 編集委員会(第124回)
- 20 30周年記念事業企画委員会(第8回)
- 27 常任委員会(第157回)
- 12 13 編集会議(割り付け)

【総会】2月27日 14:00-15:00

日本地図センター6階研修室

出席者ならびに委任状提出者: 587名

議長: 坂戸 直輝(国土地図KK)

司会: 須長 博明(日本地図センター)

議事: 高崎正義会長あいさつのあと、物故された会員の冥福を祈り全員で黙祷を行った。

平鹿2年度の事業報告・収支決算報告、平成2年度会計監査報告、平成3年度事業計画(案)と予算(案)の審議、会則・細則の変更(案)、第15期(平成3~4年度(役員の選出、創立30周年記念事業など)について審議された。

講演: 貝塚爽平「地図で考え地図で表現する」

【トピック】

第15回国際地図学会議が9月23日~10月1日 イギリスのポーンマスで行われた。

学会員25名が参加した。1991~1995年の理事会役員は次の通り

会長: D. R. F. ティラー(カナダ 再任)

副会長: 金窪敏知(日本)、J. ミランデ(スペイン)、A. パップ・ヴァリー(ハンガリー)、D. ピアス(オーストラリア)、B. ペチェニク(アメリカ)、M. ウッド(イギリス)、E. ボス(オランダ)

各委員会・作業部会の委員長

常置委員会

1. 教育と訓練に関する常置委員会 F. J. オルメリンク(オランダ)
2. 地図学の歴史に関する常置委員会 M. ペルティエ(フランス)
3. 地図作成技術に関する常置委員会 M. ミタソフスキ(チェコスロバキア)
4. 先端技術に関する常置委員会 E. アンダーソン(アメリカ)

委員会

5. 空間データ伝達の基準に関する委員会 H. モエルリング(アメリカ)
6. ナショナルおよびリージョナルアトラスに関する委員会 B. ライステッド(スウェーデン)
7. 触地図・弱視地図作成に関する委員会 J. ウィーデル(アメリカ)
8. 衛星画像による主題地図作成に関する委員会 B. ガルティエ(フランス)
9. 地図と空間データ利用に関する委員会 J. カーター(アメリカ)
10. 人口移動性の地図学に関する委員会 I. B. F. コルモス(ベルギー)
11. 空間データの品質に関する委員会 S. モリソン(アメリカ)
12. 都市地図学に関する委員会 N. タッチ・ガリー(メキシコ)

作業部会

13. 地図学における主要理論的文献を特定するための作業部会 金窪敏知(日本)
14. 海洋地図学に関する作業部会 R. ファーネス(オーストラリア)
15. 地図学における性に関する作業部会 E. シーキールスカ(カナダ)
16. 地理情報の市場性に関する作業部会 V. グリッターマン(カナダ)
17. IFLA/ICA 合同作業部会(理事会がIFLAと折衝中) J. ノイマン(ドイツ)

日本のナショナルレポート: 9月中旬完成 60ページ
内容は次の通り

序言: 高崎正義

I 最近4年間の主な事項: 金窪敏知

II 日本学術会議地図学研究連絡委員会および日本国際地図学会の活動: 大竹一彦

III 地図学活動の主な動向

1. 在来の地図学 (1) 一般図(永井信夫) (2) 主題図(谷岡誠一) (3) 海図、航空図、海洋の地図(西沢邦和) (4) 地籍図(小牧和雄) (5) アトラス(宇根 寛) (6) 都市図・触地図他(須長博明) (7) 地球儀(須長博明)
2. コンピュータ支援地図学 (1) 各縮尺の地図データ数値化と利用(秋山 実) (2) 海図用の

自動作成(西沢邦和) (3) 電子海図(西沢邦和)
 (4) リモートセンシングの応用(小出正則)
 IV 地図作成機関とその事業概要 (五條英司)
 V 地図調製に関する教育と資格 (金澤 敬)
 VI 海外技術協力 (1) 国土地理院(矢口 彰) (2)
 水路部(西沢邦和) (3) 地質調査所(鹿野和彦)
 「指でみる地図の世界」刊行
 1989年横浜での第3回シンポジウムの記録・・・
 国際シンポジウム議事録が刊行された。なお世界各国から横浜へは200名が参加。

【大会】 8月8日-9日 10:00-16:10
 千葉県立中央博物館 (参加者: 234名)

研究発表

1. 「海國圖志」中の地図と地名 (細井将右)
2. 昭和初期の樺太2萬5千分1空中写真測量要図について (村山桂山)
3. 第一軍管地方2萬分1迅速測図原図の複製とその意義(大竹一彦・野々村邦夫・長岡正利・井口悦男・清水靖夫・師橋辰夫・森六一郎・大森八四郎・板垣茂治)
4. 前橋、高崎付近にみられる2萬分1迅速測図の補足図 (井口悦男)
5. 元伊勢の絵地図と要石 (山田安彦)
6. 1萬分1地形図「東京中心部」記念地図作成について (古屋正樹・西村 滋)
7. 湖沼景観図について(中田外司・岡田直久・谷岡誠一)
8. 「海洋利用状況図」の研究について (浜崎広海)
9. 日本南方海域海底地形図(1/250万)について(広瀬貞雄)
10. 地形図からみた地下水 (飯田貞夫)
11. 地図帳作成システムALPSの概要 (小林一英)
12. 「日本の山岳標高一覧-1003山-」の公表について(辻みどり・坪田清一・東海林日出男・長岡正利・野々村邦夫・五百沢智也)
13. 新しい小学生用地図の模索 (伊藤 等)
14. 中学・高等学校の地理教育における地図の活用について (菊澤健生)
15. 高校社会科地理教育における地図学習-20萬分1地勢図の利用- (伊藤 等)
16. コンピュータを利用した50萬分1地方図の作成について(中島秀敏・杉原祐二・本庄 豊・佐藤敏朗)
17. 地理情報データベースについて (田中庸夫)
18. 数値地図情報の新しい提供方法について (八木新太郎・大木章一・志田忠広)

講演: 沼田 眞 「環境保全と地図」

【例会】

第142回 4月20日 14:00-17:00
 日本地図センター6階研修室
 司会: 須長博明 出席者: 20名

1. ICA 地図学の概念に関する委員会(1990年10月10日~13日、チェコ・スロバキアのブルノー市で開

催)の報告 (金窪敏知・森田 喬)
 2. 近未来の地図の編集製図-ICA 教育委員会会議-
 (1990年9月23~27日 米国アラバマ州ハンツビル市)
 (金澤 敬・森田 喬)
 第143回 6月15日 13:30-15:30 水路部6階会議室
 司会: 西沢邦和 出席者: 17名
 1. 相模湾西部における海底地形調査 -伊豆沖海底火山噴火の報告を含めて-。(菊池真一)
 2. ヨーロッパで集めた地図類の利用特性上の分類について (小俣一郎)

第144回 第27回地方大会 -仙台-
 10月26日 13:00-17:00
 東北学院大学土橋キャンパス 67年館542番教室

1. 東北初の都市図・1万分1地形図「盛岡」の作製 (鉄島清忠・宮腰 実・鈴木宏昭)
2. 地図類からみた仙台市の住宅地開発 (三田 論)
3. 仙台地区の新たな土地利用図の作成について (橋爪三雄・太田正孝)
4. 地図関係資料からみた野蒜築港事業 (田村勝正)
5. 航海用海図の変遷-陸中釜石港の図から電子海図まで- (児玉徹雄)
6. 東北地方における地図の整備状況 (鉄島清忠・宮腰 実・石田全平)
7. 磐梯山1888年噴火前後の状況を示す地図および絵図について (米地文夫)

講演: 設楽 寛 (富士大学)
 「見えない地図-気候の様相とその動き」

【専門部会】

- 都市地図専門部会
 1万分1地形図(大正5年修正版)を利用して、明治末から大正初期にかけての都市的土地利用図作成について
- 地図学教育専門部会
 地理専門家教育訓練専門部会改め、部会名を改名し、ICA: Basic Cartography 日本分担分の作成について
- 地図教育専門部会
 初等(小学校)教育に適した地図帳の検討を行った
- 地図用語専門部会
 地図学用語辞典の再版について
 ICA-MDC 第2版の作成対応について
 地図用語カードのup-datingの問題について
- 地図図式専門部会
 各国の図式の比較・対照表に整理
- 地図複製専門部会
 伊能図複製について
- 地図複製・地図教育・地図史 合同専門部会
 30周年記念刊行物、伊能図複製について後委員会を編成する

1	17	評議員会(4年第1回常任委員会(第158回)合同)
	23	編集委員会 (第125回)
	25	第145回例会
	15	総会
3	12	目録作製 (作業) 委員会
	12	編集会議 (割り付け)
	27	常任委員会 (第159回)
	27	30周年記念事業企画委員会 (第9回)
4	10	目録作製委員会
	17	目録作製 (作業) 委員会
	22	定期大会運営委員会・集会委員会 (4年度第1回)
	24	編集委員会 (第126回)
5	6	目録作製委員会
	19	目録作製 (作業) 委員会
	27	常任委員会 (第160回)
		30周年記念事業企画委員会 (第10回)
6	5	編集会議 (割り付け)
	6	定期大会運営委員会・集会委員会(第2回)
6	6	例会 (第146回)
7	15	常任委員会 (第161回)
	15	企画委員会 (第1回)
	27	編集委員会 (第127回)
8	4	評議員会(4年第2回) 顧問・参与会合同
4.5		平成4年度定期大会
	6	同巡検
8	28	目録作成 (作業) 委員会
9	2	表彰委員会 (第1回)
	4	編集会議 (割り付け)
	9	目録作成 (作業) 委員会
	25	常任委員会 (第162回)
	25	企画委員会 (第2回)
	30	編集委員会 (第128回)
10		以下予定
		編集会議 (割り付け) 選挙委員会 企画
		委員会 常任委員会 編集委員会 選挙委員会
11	24	30周年記念式典
12		編集会議 (割り付け) 例会 (第147回)

【総会】 2月15日 13:50-15:00
 日本地図センター6階研修室
 出席者ならびに委任状提出者: 683名
 議長: 土肥 規男 (国土地理院)
 司会: 西沢 邦和 (海上保安庁水路部)
 議事: 高崎正義会長あいさつのおと、物故会員の冥福を祈り黙祷。今年は創立30周年にあたり、大いに発展を期待したい旨。
 講演 岩淵義郎「海図—その過去、現在、未来」
【日本国際地図学会創立30周年記念式典】 (予定)
 11月24日 15:00-18:40
 日本大学会館大講堂 (東京都千代田区)

開会	常任委員長	大竹一彦
あいさつ	会長	高崎正義
来賓あいさつ	国土地理院長	宮崎大和
	水路部長	岩淵義郎
	日本地理学会長	浮田典良

賞状授与
 感謝状贈呈
 記念講演: 谷岡武雄 (立命館大学前総長)
 「都市・農村計画のルーツを探る」
 記念パーティー

【トピック】

30周年記念刊行物

「30年のあゆみ」: 「10年のあゆみ」「20年のあゆみ」
 にならい編集。

1. 学会で活躍された方々の横顔
2. 30年各年のあゆみ
3. 30年各界のあゆみ
4. 国際会議等
5. 「地図」所収記事総目録
6. 役員等

「近代日本主要地図目録」明治以降に作成された、わが国の主要地図について、地図群毎に、作成の経過・概要が説明されている画期的刊行物 同作業委員、編集委員によってまとめられた。各省庁刊行図のほか自治体、一部民間図にわたっている。

「伊能図」大日本沿海実測図」あまりにも有名な地図でありながら、幕府が秘密あつかいし、その後火災で大部分が失なわれたため、直接見たことのある人は少い。今回国立博物館 (東京上野) 所蔵図をもとに縮小編集して、日本全図と各地方別図とした。別冊16頁の解説書が添付されている。地図教育・地図復作・地図史の各専門部会の合同による作成委員会が実務にあたった。

【大会】 8月4日-5日 9:00-17:10

郁文館学園 (東京都文京区) (参加者: 314名)
 研究発表

1. 産業大分類別就業人口構成比の1965年~1980年の変化—三角ダイアグラムを使ったコロプレスマップの作成による— (瀬戸玲子)
2. 新図式による沿岸海域基本図について (鈴木義宣)
3. 沿岸防災情報図・真鶴岬至宇佐美について (岩根信也)
4. クライアントサーバーモデルによる地図処理システムの構築 (小林一英)
5. コンピュータ植字システムの研究開発 (高橋義昭)
6. 地図投影における変革 (金澤 敬)
7. 愛媛県松野町に伝わる17世紀作製の地形模型について (木全敬蔵)

8. 境論にともなって作製された近世「地形模型」の三例—沖の島木形・篠山木形・目黒村山形— (河村克典)
 9. 10 万分 1 沿岸域情報概要図について (斎藤 保)
 10. パソコンによる都市情報システム (GAINS-PAS) について (山田 弘)
 11. 地中海図—3 次元空間の地図表現— (津沢正晴・村岡清隆・関口辰夫)
 12. 高校社会科地理教育における地図学習—複数の地図の利用— (伊藤 等)
 13. 最近の大学入試問題と地図 [第 2 報] (清水幸男)
 14. 地図利用に必要な用語について—学校教育の場合— (森 秀雄)
 15. 高校地理地域構造の地誌的授業展開における地図活用について (新田牧雄)
 16. 中学・高校における地図活用の授業について (菊沢健生)
 17. 小学校 4 年生における等高線の初歩的な指導 (中山正則)
 18. 雲仙岳噴火にともなう火山基本図の作成と溶岩噴出量の計測 (田中宗男・小出正則・川田正勝・益田幸男・佐藤栄二・長岡正利)
 19. シービーム 2000 システムによる海底音響画像調査について (浅田 昭)
 20. 仮説“古代測量器具としての青銅器” (渡辺 浩)
- 講演：鶴飼幸雄 「地図・地理・視聴覚」
シンポジウム「数値地図と地理情報システム」
座長：永井信夫
パネラー：野上道男・八木新太郎・加藤 茂・宮坂力蔵・今井 修
巡検：地図で歩く駒込周辺 (8月6日)
案内者：鶴飼幸雄 参加者 30 名
地図展：最新の地形図類・海図類・自治体作製の地図類、旅行案内などを展示

【例会】

第 145 回 1 月 25 日 14:00—16:00
日本地図センター 6 階研修室
司会：須長博明 出席者 27 名

テーマ：第 15 回国際地図学会議及び第 9 回 ICA 総会の報告

1. ICA のめざすもの—本会議及び総会の概要 (金窪敏知)
 2. 最近の地図学の動向—発表論文と委員会報告から— (永井信夫)
 3. 各国の地図技術—地図・技術展示と巡検から— (五條英司)
 4. ロンドンの再開発計画とオードナンスサーベイ、パーソロミュー地図会社での印象など (高崎正義)
- 第 146 回 6 月 6 日 14:00—16:00

日本大学文理学部 7 号館 4 階

司会：立石友男 出席者 47 名

テーマ：ニューメディアにおける地図表現

1. 地理情報データベースの構築とその表現 (宇根 寛)
2. パソコンを用いた地理情報の表現 (小宮山澄夫)
3. 事例表現と討論
 - (1) 電子アトラス (全国レベル)
 - (2) 地理情報データベース (県レベル)

【専門部会】

地図用語専門部会

地理学用語辞典 (日本地理学会で作業中) のうち「地図学の部」の日本語同義語の審議など

地図教育専門部会

初等教育に適した地図帳の素案の討議など

【記念刊行物の編集委員会】

「30 年のあゆみ」：機関誌「地図」の編集委員が分担
「近代日本主要地図目録」

伊藤 等・○大竹一彦・*清水靖夫・*須長博明・奥克彦・坂戸直輝・森六一郎・長岡正利・斉藤忠光・今井健三 (*印作業班兼務、○印委員長△印事務局)
「伊能図の複製に関する委員会」

伊藤等・岩井暁次・鶴飼幸雄・井口悦男・○大竹一彦・小島久武・清水靖夫・*須長博明・土肥規男・師橋辰夫 (○印委員長、*印事務局)